

平成 21 (2009) 年度
沖縄県ホストファミリーバンク推進事業
(海外県系人子弟ホームステイ受入事業)
(海外県人会ホームステイ派遣事業)
報告書



沖縄県観光商工部交流推進課
(受託) 沖縄NGOセンター

はじめに

「移民」をキーワードに開始された「ホストファミリーバンク推進事業」

顧みれば、20世紀初頭、南北アメリカ大陸を中心に世界各地へ雄飛した先達の撒いた種は、1世紀を経た今日36万人とも云われ、県人とその子弟の各界各層での活躍、発展はめざましいものがあり、ウチナーンチュの一大ネットワークを形成するまでに至っております。

ところで、海外の沖縄県人社会では、時代の変遷と世代を重ねるにつれ母県沖縄に対する認識と関心が薄れ、次代を担う人材の育成が課題となっており、他方県内の若い世代には、沖縄の近・現代史の重要な要素を成す海外移民の歴史に学びこれを受け継いでいくことが求められております。

連綿として形成されてきたウチナーネットワークを確固たるものとし、将来へ向け更に拡大発展させていくための一助として、海外県人会と県内双方の子弟を相互に派遣・受入れ、ホームステイを通して学習を積み重ね相互理解を深めていくことは時宜を得たものと思えます。

第3回目を迎えた「ホストファミリーバンク推進事業」の実施に当たり、海外から県人子弟3名を快く受け入れて頂いた県内ホストファミリーの皆様、県人子弟18名を我が子、孫の如くお世話頂いたニューメキシコ沖縄県人会、バンクーバー沖縄県友愛会の皆様及びホストファミリーの皆様、並びに視察研修等各方面に亘って御協力を賜りました関係者の皆様に対し、厚くお礼を申し上げる次第です。

百聞は一見に如かず。ひと夏の小さな海外雄飛を果たした中高校生諸君の観想文は、各々の個性と威性が光っており印象深いものがあります。

期待と不安の入り混じった派遣前の揺れる心に始まり、大自然のパノラマに目を見張り、異文化に接しては自らを省みた一時、自らの語学力のいたらなさ奮起を期した日々、そしてホストファミリーとの心の触れ合いと別離の涙・・・、自ら行動し、自らの目で見、自らの頭で考え、自らの言葉で語ることの重要性を知る上でも貴重な10日間であったことを伺い知ることができます。

この事業に参加した21名の皆さんには、これを一過性のものにする事なく、相互のコミュニケーションを保ちつつ友好の絆を深め、国際的な理解と視野を更に広げて次代の国際交流、協力を担う国際人の一人として活躍するよう念じて止みません。

この度の「ホストファミリーバンク推進事業」に参加した学生の皆様を始め各海外県人会及びホストファミリーの皆様から寄せられたご意見を踏まえつつ、事業の成果を検証し、更なる内容の充実を期して参りたいと思います。関係者の皆様には、本県の国際交流、協力事業の推進に尚一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつと致します。

平成21(2009)年11月

沖縄県観光商工部交流推進課
課長 宮城 信之



目次

沖縄県ホストファミリーバンク推進事業

1. 事業概要1

2. 事業経過2

海外県系人子弟ホームステイ受入事業 報告

3. 受入参加者プロフィール3

4. 受入日程4

5. 受入アンケート結果5

6. 受入・お世話になった皆様7

7. 受入事業・思い出の一コマ8

海外県人会ホームステイ派遣事業 報告

8. 派遣参加者10

9. 派遣日程11

10. 事前事後研修15

11. 派遣実施体制16

12. 現地活動報告17

13. 派遣参加者感想21

14. 派遣アンケート結果

(1)参加者(派遣前)34

(2)参加者(派遣後)36

(3)ホストファミリー38

15. 思い出の一コマ44

16. ホストファミリーバンク登録県人会48

17. 編集後記49

沖縄県ホストファミリーバンク推進事業

ホストファミリーバンク推進事業は、沖縄県内の若い世代と海外県系人の若い世代のホームステイを通じた双方向の交流を促すことにより、本県における国際理解の促進と海外県系人社会の活性化を図り、「ウチナーネットワーク」を担う次世代を育成することを目的としています。平成18年度に開催された第4回世界ウチナーンチュ大会の「ワールドウチナーシンポジウム」にてその推進が議決され、事業が開始しました。

具体的には、「海外県系人子弟ホームステイ受入事業」及び「海外県人会ホームステイ派遣事業」の2事業により実施されています。

○海外県系人子弟ホームステイ受入事業

本事業は、海外県系人子弟等が沖縄県内におけるホームステイを通して、県民との交流や沖縄の歴史・文化・自然などの体験学習、学校への体験入学、ルーツの地域との交流により、母県・沖縄に対する理解と絆を深めるとともに、海外県系人社会の発展とウチナーネットワークを担う次世代の人材育成に貢献することを目的としています。

実施期間:2009年6月17日～6月27日 10泊11日

参加人数:3名

- ・ デイプリ ジェイク(17歳 男性 アメリカ)
- ・ ウィリアムス エヴィリン(15歳 女性 アメリカ)
- ・ 新井 隼人(13歳 男性 カナダ)

プログラム随行者

- 知花 美奈 (沖縄 NGO センター)
- 宮城 康一郎 (沖縄県観光商工部交流推進課)

○海外県人会ホームステイ派遣事業

本県の若い世代が海外の県人会でホームステイ及び諸活動を通して、海外へ雄飛したウチナーンチュの歴史や生活を学び、派遣先国地域や県人会コミュニティ等との交流を経験することで、世界に広がるウチナーネットワークの認識を深め、国際感覚に優れたウチナーネットワークを担う次世代の育成を図ることを目的とする。

実施期間:2009年8月12～8月23日 10泊12日

参加人数:18名(中学生5名、高校生11名、短期大学生1名、専門学校生1名)

プログラム随行者

- 宮城 康一郎(沖縄県観光商工部交流推進課)
- 金城 さつき(沖縄 NGO センター)

事業実施機関


- 特定非営利活動法人 沖縄 NGO センター
- 〒901-2211 沖縄県 宜野湾市宜野湾 3-23-52 1F
- 電話 098-892-4758 FAX 098-941-6812


事業経過


日程	内容	場所・その他
3月4日	参加者募集開始(受入)	
4月10日	応募〆切(受入)	
4月17日	受入ホストファミリー募集案内開始	
4月17日	参加者決定(受入)	
4月24日	参加者募集開始(派遣)	
5月25日	受入ホストファミリー決定	
5月29日	応募〆切(45名応募)(派遣)	
6月2、3日	面接(派遣)	沖縄県庁
6月5日	選定会議、参加者決定(派遣)	沖縄県庁
6月5日	ホストファミリー説明会(受入)	沖縄県庁
6月9日	参加者決定通知(派遣)	沖縄県
6月17日～27日	海外県人会子弟ホームステイ受入事業 実施期間	
6月26日	受入プログラム終了式	JICA 沖縄国際センター
7月11日	第一回オリエンテーション(派遣)	JICA 沖縄国際センター
8月2日	第二回オリエンテーション(派遣)	JICA 沖縄国際センター
8月12日	カナダ(バンクーバー) 米国(アルバカーキ)へ向け出発 バンクーバー・アルバカーキ到着	那覇空港～成田空港～バンクーバー国際空港 那覇空港～成田空港～サンフランシスコ国際空港～アルバカーキ空港
8月22日	日本へ向け出発	バンクーバー～成田空港～
8月23日	バンクーバー、アルバカーキ・グループ 那覇空港到着	羽田空港～那覇空港 アルバカーキ～ロサンゼルス～成田空港～羽田空港～那覇空港
9月12日	事後研修・報告会(派遣)	JICA 沖縄国際センター

海外県系人子弟ホームステイ受入事業 報告

受入参加者プロフィール

氏名・出身国	デイプリ ジェイク、アメリカ	
生年月日	1991年10月15日(17歳)	
在学中の学校	ノースコブ高校	
親(親族)の出身地	那覇市	
趣味・特技	野球、釣り、ビデオゲーム	
ホームステイで期待すること	沖縄の歴史、文化について興味があるため、首里城のような文遺産を訪れたい。沖縄のビーチにも行ってみたい。	

氏名・出身国	ウィリアムス エヴィリン、アメリカ	
生年月日	1993年11月6日(15歳)	
在学中の学校	ハンナ高校 9年生	
親(親族)の出身地	那覇市	
趣味・特技	バイオリン、読書、アウトドア、手作り工芸、書くこと	
ホームステイで期待すること	沖縄滞在の経験を通して、自分が受け継いだものを発見したい	

氏名・出身国	新井 隼人、カナダ	
生年月日	1995年6月27日(13歳)	
親(親族)の出身地	読谷村	
趣味・特技	ギター、ランニング(短距離)	
日本語レベル	日常会話程度	
ホームステイで期待すること	沖縄の文化、伝統をもっと知りたい。年齢の近い子どもたちがどのような学校生活を送り、どのような遊びをしているのか知りたい。	

■ホストファミリー名簿

NO.	ホストファミリー名	居住地	ホームステイする者
1	野崎 由紀夫 さん宅	糸満市	デイプリ ジェイク
2	嶺井 末子 さん宅	南城市	ウィリアムス エヴィリン
3	北村 博美 さん宅	那覇市	新井 隼人

受入日程

沖縄県海外県系人子弟ホームステイ受入事業 全日程プログラム

月日	時間	プログラム	訪問先	担当
6月17日 (水) 1日目		参加者到着 空港にて出迎え ジェイク、エヴィリン(20:35着) 隼人(22:25) 隼人(22:25)		県、ONC ホストファミリー
6月18日 (木) 2日目	11:00～12:30 12:30～13:30 14:00～16:00 16:00～16:30 16:30～16:45 17:00～18:00 18:30～21:00 21:00～	参加者迎え 昼食&歓迎会 参加者オリエンテーション 県庁見学 参事監表敬訪問 国際通り散策 「移民の日」交流会参加 参加者の送り	県庁→各ホームステイ先→県庁 県庁近く「ホテルちゅら琉球」レストラン 県庁8階第3会議室 県庁 参事監室 国際通り 那覇セントラルホテル ホテル→各ホームステイ先	県、ONC 県、ONC 県、ONC 県、ONC ONC ONC ホストファミリー
6月19日 (金)	8:30～10:00 10:00～13:00 13:30～14:00 14:00～17:30 18:00～19:00	参加者迎え がんにゅう駅・南城 ピーチコーミング→クラフト体験 移動 昼食 移動 嘉数高台 移動 琉球風車との交流プログラム① ・エイサー(沖縄文化)ワークショップ ・キーホルダ用太鼓作り ・エイサー体験 参加者の送り	県庁→各ホームステイ先→がんにゅう駅・南城 がんにゅう駅・南城 あざまサンサンビーチ 昼食(沖縄そば処 絲屋) 宜野湾市嘉数公園 沖縄国際大学 沖縄国際大学→各ホームステイ先	県、ONC 県、ONC 県、ONC 県、ONC 琉球風車 県、ONC
6月20日 (土) 4日目	9:00～12:00	ガマ見学 ・シムクガマ ・チビチリガマ	読谷村波平	県、ONC 虹の会
6月21日 (日) 5日目		ホームステイ		
6月22日 (月) 6日目	8:30～10:00 10:00～12:00 12:30～13:00 13:00～14:00 14:30～16:00 16:30～17:30 17:30～19:00	参加者ピックアップ 首里城公園見学 移動 昼食 ショッピング 移動 キリ学にて体験授業 ・沖縄移民のワークショップ ・大学構内見学 中間ふり返りミーティング 参加者の送り	県庁→各ホームステイ先→首里城公園 首里城公園 昼食(マリンプラザ東浜) 沖縄キリスト教学院大学 沖縄キリスト教学院大学→各ホームステイ先	県、ONC 県、ONC 県、ONC 県、ONC 県、ONC
6月23日 (火) 7日目		ホストファミリーと過ごす慰霊の日		
6月24日 (水) 8日目	8:30～10:00 10:30～13:30 13:30～14:30 15:00～18:00 18:00～20:00 20:00～21:00 21:00～22:00	参加者迎え 読谷中学校との交流プログラム 移動 琉球風車との交流プログラム② ・エイサー練習、その他プログラム 夕食・休憩 エイサー合同練習見学 参加者の送り	県庁→各ホームステイ先→読谷中学校 読谷中学校 沖縄国際大学 夕食(沖縄国際大学内にてお弁当) 沖縄国際大学 宜野湾市→各ホームステイ先	県、ONC 琉球風車 県、ONC 琉球風車 県、ONC
6月25日 (木) 9日目	8:30～10:00 10:30～13:00 13:00～ 16:30～17:30 17:30～19:00	参加者迎え 沖縄そば作り体験 平和学習(糸満) ・平和祈念資料館 ・平和の礎見学 移動 自由時間 参加者の送迎	県庁→各ホームステイ先→県庁→サン食品 サン食品(糸満市) 平和祈念公園 南風原ジャスコ 南風原ジャスコ→各ホームステイ先	県、ONC 県、ONC 県、ONC
6月26日 (金) 10日目	8:30～10:00 11:00～12:00 12:00～13:00 14:00～16:00 17:00～18:30 18:30～21:00	参加者迎え 伊計島ツアー ・ぬちまーす工場見学 移動 昼食 移動 ショッピング、ボウリング 移動 休憩・修了式の準備 修了式・さよならパーティー	県庁→各ホームステイ先→伊計島 伊計島 昼食(キングターコス) 北谷アメリカンヴィレッジ JICA沖縄にらいホール "	県、ONC 県、ONC 県、ONC 県、ONC ホストファミリー 琉球風車など
6月27日 (土) 11日目		参加者親戚宅へ プログラム終了		

受入アンケート結果

■参加者用アンケート

Q1. 今回のこの事業に対する感想を記述してください

(良かった点、改善すべき点、その他など)

- ・ 全てのプログラムにおける体験はどれも素敵なものばかりでした。改善すべき点としてはプログラムの中にビーチでの遊泳を許可してほしい。
- ・ プログラムの全てが素晴らしかった！観光名所を訪れることができたのも良かった。ただ、ホストファミリーとの関係がうまくいかなかったり、食事が合わなかったりと大変なこともあった。
- ・ とてもよかったです。沖縄でしか体験できないことをたくさんすることができました。プログラム中、海での参加者の遊泳を許可してもらえると更に良い。

Q2 プログラムを通して沖縄の文化を学んだり、人々との交流を深める事はできましたか？

- ・ 沖縄の文化を十分に学ぶことができました。
- ・ 沖縄の文化について初めて学ぶことが多くとてもよかったです。また、滞在中にたくさんの友達ができただけで嬉しかった。
- ・ 沖縄の人々はとても友好的で、すぐに打ち解けることができた。沖縄はとても美しいところでした。

Q3, 印象に残っているプログラムは？

平和祈念公園、首里城、エイサー体験、沖縄そば作り体験 など

Q4. あなたが期待したことはこのホームステイツアーでどのくらい達成されましたか？

- ・ 98%:海で泳ぐことができれば100%でした
- ・ 99%:ビーチでおよぎたかったのでマイナス1%
- ・ 85%
- ・

Q5.その他に事前に学んでいたほうがよかったと思うことはありますか？

- ・ある程度日本語の読み書きができたほうがよいと思った。
- ・沖縄料理について調べたほうがよかった。(心構えのため)
- ・日本語を学ぶべきだと感じた。

Q6. その他、プログラムに対する要望等があれば書いてください。

- ・もう少しフリータイムを多く設定してほしい。そうすれば泳ぎにいけるから。
- ・地元の中学校や高校に数日間通うことができたならもっと良いと思う。
- ・参加者を自由に泳がせてください！その点以外はこのプログラムには大満足です。素敵な機会をありがとうございました。ホストファミリーの方もとてもいい人達ばかりで、沖縄っていいところだなと心から思い

ました。

■ホストファミリー用アンケート

1. 今回のこの事業に対する感想を記述してください

(良かった点、改善すべき点、派遣生徒に対して要望したいこと、その他)

- ・朝早起きで、夜は早めに寝る子。大変素直でいい子でした。
- ・色々な企画をしていただき感謝しています。

2. 今回のホームステイの実施時期については、適当でしたか？

- ・梅雨時でスケジュール通りおもてなしができなかった。
- ・適当(でも短く感じました。)
- ・10日間は思っていたより短かった。2週間でもよいかもかもしれません。

3. 今回受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか？

- ・勉強熱心で色々なことに興味をもっていた。
- ・とてもよかったです。生活態度もとてもよく、家族のルールにも従ってくれました。

4. 次回以降についても、ホームステイ受け入れが可能なホストファミリーとして、ホストファミリーバンクに登録しても良いですか？

- ・登録 OK です(3件)

5. その他、県に対する要望等があれば、書いてください。

- ・アレルギー等があれば事前に知りたいです。今回は大丈夫でした。
- ・3人とも海で泳げないことに嘆いていた。海までいくのに泳げないのは可哀想だと思いました。

お世話になった皆様

プログラム実施期間中には以下の様々な団体、企業、学校関係のみなさまにも大変お世話になりました。全ての受入プログラムが実り多きものとなり、無事に終了することができましたのも皆さまの多大なるご協力のお陰です。この場をお借りして改めて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

～お世話になった団体・学校関係のみなさま～

神田 洋司 さま <琉球大学 学生平和ガイドの会>:

6月20日に行われた平和学習ツアー(読谷村)のガイドを担当してくださいました。

沖縄国際大学エイサーサークル 琉球風車 さま

参加者のために沖縄文化体験(エイサー体験)プログラムの作成・実施を担当してくださいました。終了式では見事なエイサーをプログラム参加者と共に披露し会場を盛り上げてくださいました。

読谷村立 読谷中学校 さま

参加者をクラス単位で受け入れ体験授業と交流プログラムを行ってくださいました。

沖縄キリスト教学院大学 さま

NGO・NPO論クラスの授業へゲストとして参加させていただきました。

キリスト教学院大学のみなさんと→



～お世話になった施設・企業関係のみなさま～

がんじゅう駅南城、海の駅イノー (南城市) さま

おきなわの衣装体験とビーチクラフト体験プログラムの実施にご協力いただきました。

株式会社 むちまーず (うるま市) さま

工場見学ツアーへ参加させていただきました。

株式会社 サン食品 (糸満市) さま

手作り沖縄そば教室・サンサンキッチンへ参加させていただきました。

サンサンキッチンにて→



～思い出の1コマ その①～



県庁職員との昼食会&歓迎会



自己紹介ポスターを作成中



国際通りをみんなで散策しました



参事監表敬訪問、ちょっぴりドキドキ



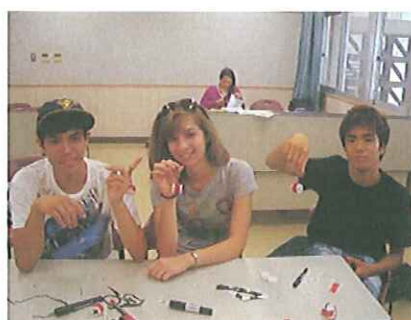
ビーチクラフト体験
何を作ってるのかな～？！



本物の首里城にみんな大興奮！



大学にて授業体験、みんなちょっぴり緊張気味のご様子。



ミニ太鼓づくりにチャレンジ！上手にできました。

～思い出の1コマ その②～



平和学習ツアーへ参加しました



読谷中学校との交流プログラム



エイサー練習もがんばりました



演舞指導してくれた琉球風車のみなさんと



沖縄そば作りを体験！



美味しいおそばの出来上がり♪



さよならパーティーでエイサーを披露！



ホストファミリーのみなさんも大喜びでした

海外県人会ホームステイ派遣事業 報告

ニューメキシコ(アルバカーキ) 8名

名前	所属	学年
冨城等 寛子	キリスト教短期学院大学	1
比嘉 峻	宜野座高等学校	3
前里 静香	開邦高等学校	2
新垣 佑佳	浦添商業高等学校	2
宮 麻里沙	興南高等学校	1
天城 聖里子	カトリック中学高等学校	1
池原 尚蓮	古堅中学校	3
盛田 都乃	金城中学校	3

宮城 康一郎	沖縄県交流推進課	引率
--------	----------	----

バンクーバー 10名

名前	所属	学年
喜屋武 春奈	ぐしかわ看護専門学校	2
平良 白季	小禄高等学校	3
矢久 真奈帆	普天間高等学校	2
宮城 里佳	向陽高等学校	2
上原 卓織	首里高等学校	1
竹田 悠人	首里東高等学校	1
豊川 理恵	開邦高等学校	1
久嵩 愛夏	寄宮中学校	2
張 笨 美嶺	大浜中学校	2
花城 里和子	東風平中学校	2

金城 さつき	(特活)沖縄 NGO センター	引率
--------	-----------------	----

派遣日程

☆米国・アルバカーキ☆

1日目:8月12日(水)	12 nd Aug (Wed)
09:30 那覇空港国内線ターミナル2階ウェルカムホール集合 ※ 出発式 ※ 那覇で預けた荷物はアルバカーキ※で受け取り(※SFO で税関審査のため一旦受け取る。)	
11:20 那覇発 全日空 2158 便にて成田へ 14:25 成田着 出国審査 16:05 成田発 ユナイテッド航空 838 便にてサンフランシスコへ	
09:20 サンフランシスコ着 入国審査 12:31 サンフランシスコ発 ユナイテッド航空 6416 便にてアルバカーキへ 15:57 アルバカーキ着 (20 時間 07 分)	
・Group welcome dinner At Furr' s Restaurant(ウェルカムディナー ファールズレストラン) 2004 Wyoming N. E.	
2日目:8月13日(木)	13 rd Aug (Thu)
・The City Hall (市役所)visit ・市長表敬 ・Old Town 散策 ・Seafood dinner at Route 66 Casino	
3日目:8月14日(金)	14 th Aug (Fri)
Santa Fe 行き 天候不良のため延期 ・ホストファミリー宅(ギャレス家)にて歓談及び昼食 ・ホストファミリー宅(ライト家)にて琉球舞踊の練習 ・Mall shopping(ショッピング)	
4日目:8月15日(土)	15 th Aug (Sat)
・Indian Festival(インディアン祭り)見学 ・Indian Cultural Center(インディアン文化センター)見学 ・ホストファミリー宅(ギャレス家)にて夕食交流会	
5日目:8月16日(日)	16 th Aug (Sun)
・Tram ride to Crest(ケーブルカーでサンディア マウンテンの頂上へ)、短距離ハイキング。 ・Social Meeting with Local Kenjinkai Members(アルバカーキー県人会との交流会)at:ホストファミリー宅(マックレナン家)	
6日目:8月17日(月)	17 th Aug (Mon)
・White Sand (ホワイトサンド)見学 ・Space Museum(宇宙博物館)見学	

5日目:8月18日(火)	18 th Aug (Sun)
<ul style="list-style-type: none"> ・ホストファミリー宅(ライト家)にて琉球舞踊の練習 ・ニューメキシコ大学にて琉球舞踊等文化紹介 ・Mall Shopping(ショッピング) ・ホストファミリー宅(パッテン家)にて夕食交流会 	
8日目:8月19日(水)	19 th Aug (Wed)
<p>午後からの日程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュエリー工場見学 ・タイのお寺見学 ・Mall Shopping(ショッピング) ・県人会員宅(コーフェル家)にて夕食交流会 	
9日目:8月20日(木)	20 th Aug (Thu)
<ul style="list-style-type: none"> ・インディアンモニュメント見学 ・ソーダダム見学 ・Bandelier National Monument(バンドリア国立公園)見学 ・県人会宅(フェリス家)にて昼食交流会 ・Los Alamos Atomic Energy museum(ロス アラモス 原子力博物館)見学 ・県人会宅(Potocki 家)にて夕食交流会 	
10日目:8月21日(金)	21 st Aug (Fri)
<ul style="list-style-type: none"> Santa Fe by Train (列車に乗ってサンタ フェーへ) ・Santa Fe City(サンタ フェー市内)見学: ・聖フランシス大聖堂見学 ・Shopping(ショッピング) ・Sayonara Party(送別会) at:Japanese Kitchen 	
11日目:8月22日(土)	22 nd Aug (Sat)
<ul style="list-style-type: none"> * 8時に空港集合 * アルバカーキで預けた荷物は成田で受取 10:01 アルバカーキ発 ユナイテッド航空 6473 便にてロサンゼルスへ 11:00 ロサンゼルス着 出国審査 13:13 ロサンゼルス発 ユナイテッド航空891便にて成田へ 	
12日目:8月23日(日)	23 rd Aug (Sun)
<ul style="list-style-type: none"> 16:30 成田着 入国審査 リムジンバスで羽田へ 羽田空港全日空カウンターにて搭乗手続き 20:00 羽田発 全日空 135 便にて那覇空港へ 22:30 那覇着 (17時間29分) 	

☆カナダ・バンクーバー☆

1日目:8月12日(水)	12 th Aug(Wed)
09:30 那覇空港国内線ターミナル2階ウェルカムホール集合	
<ul style="list-style-type: none"> ※ 出発式 ※ 全日空 13 番カウンターで搭乗手続き(パスポート&E チケット提示) ※ 那覇で預けた荷物はバンクーバーで受け取り 	
11:50 那覇発 全日空 2158 便にて成田へ	
14:25 成田着 出国審査	
19:00 成田発 エアカナダ 4 便にてバンクーバーへ	

11:45 バンクーバー着	(8 時間 45 分)
2日目:8月13日(木)	13 rd Aug(Thu)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内観光(Gasutown)、タイ料理レストランで昼食 ・ Stanley Park ・ ショッピングモール 	
3日目:8月14日(金)	14 th Aug(Fri)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホストファミリーとフリータイム 	
4日目:8月15日(土)	15 th Aug(Sat)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内観光(Gastown、ネイティブ・インディアン の 工 芸 品 店 など) ・ Metro city(ショッピング) 	
5日目:8月16日(日)	16 th Aug(Sun)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県人会ピクニック(トラウト・レイク) 	
6日目:8月17日(月)	17 th Aug(Mon)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語学校 ・ チャイナタウン(昼食) ・ 沖縄県系人職場見学(歯科技工士・奥間さん) 	
7日目:8月18日(火)	18 th Aug(Tue)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県系人職場見学(棚原鉄工所、棚原さん) ・ オリンピック会場、スティーブストン ・ 国境 ・ 沖縄県系人職場見学(農場、宮城さん) 	
8日目:8月19日(水)	19 th Aug(Wed)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ノース・ショアー(つり橋、ダム) ・ ビーチ散策 ・ 沖縄県人会会長・神里さん宅にて昼食 ・ ハンディークラフト(アルバム作成) ・ 送別会(場所:ガーデナー組合会館) 	

9 日目:8 月 20 日(木)	20 th Aug (Thu)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ブリティッシュコロンビア大学 人類博物館見学 ・ プレイランド(遊園地) 	
10 日目:8 月 21 日(金)	21 st Aug (Fri)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホストファミリーとフリータイム 	
11 日目:8 月 22 日(土)	22 nd Aug (Sat)
<p>* 出発 2 時間前までに空港に到着</p> <p>14:00 バンクーバー発 エアカナダ 3 便にて成田へ (9 時間30分)</p>	
12 日目:8 月 23 日(日)	23 rd Aug (Sun)
<p>15:30 成田着 リムジンバスで羽田へ 羽田空港全日空カウンターにて搭乗手続き</p> <p>20:00 羽田発 全日空 135 便にて那覇空港へ</p> <p>22:30 那覇着</p>	

派遣までの日程確認、参加者同士の連帯感を深める、参加者の意識を高めることを目的に、以下の研修を行った。

◇ 第1回 オリエンテーション

日時:2009年7月11日(土)10:00~17:00

場所:JICA 沖縄国際センター ニライホール

内容:保護者説明会、旅行社からの説明、質疑応答、語学研修、派遣地情報、沖縄移民の学び、事前学習(テーマを見つける)、次回までの準備事項確認

講師:嘉陽達也(カナダ県費留学生)、マッキーナ ヴィカーシャイスリー(アメリカ県費留学生)

…語学訓練、派遣地情報

配布資料:研修資料(保護者用、参加者用)

【事業概要、ホームステイ日程、ホームステイ心構え、沖縄移民について、派遣地情報、英会話集、参加者一覧、事前学習調べノート(伝えたい沖縄のこと、現地について調べたこと)他】

◇ 第2回 オリエンテーション

日時:2009年8月2日(日)10:00~17:00

場所:JICA 沖縄国際センター ニライホール

内容:昨年度参加者体験談、語学研修、発表準備(伝えたい沖縄のこと)、役割分担、出発までの日程確認

講師:嘉陽達也(カナダ県費留学生)…語学研修、派遣地情報

OB・OG:2007年度参加→野崎敦史(那覇西高校3年)、宇栄原こなつ(小禄高校2年)

2008年度参加→池宮城優子(琉球大学4年)、伊波南波美(コザ高校3年)

配布資料:活動日誌

【緊急連絡網、日程表、活動日誌、歌集、地図など】

事後研修

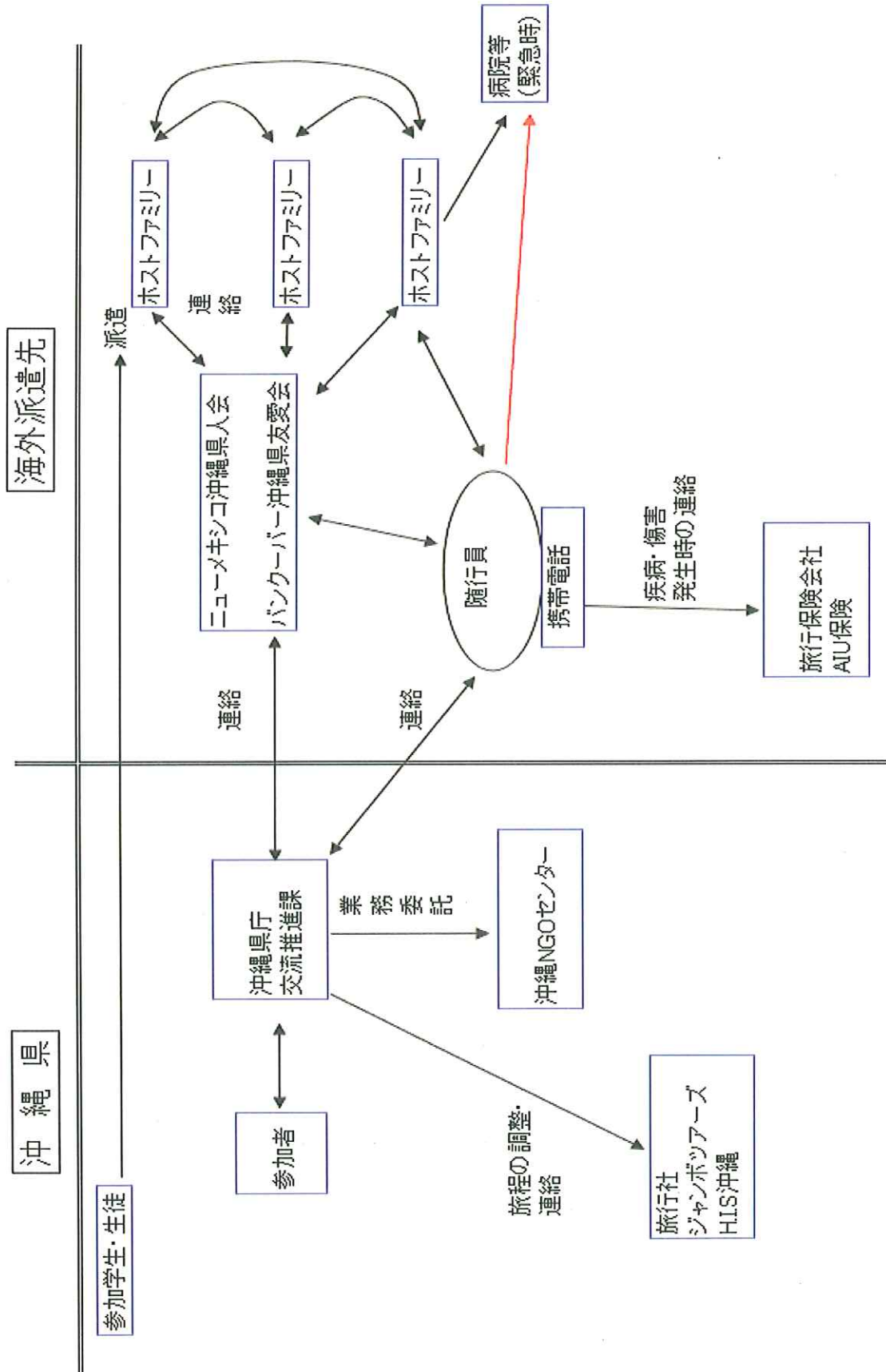
帰国後、事前研修からホームステイ派遣中までのことを振り返り、参加者より体験報告してもらった。

日時:2009年9月12日(土)13:00~16:00

場所:JICA 沖縄国際センター ニライホール

参加者:ホームステイ参加者、参加者家族、留学生、OB・OG、沖縄カナダ協会、沖縄アメリカ協会、事業関係者

実施体制（派遣）



☆米国・アルバカーキ☆

8月12日(水) 晴れ

飛行機に乗りっぱなしだったから疲れた。だけど、県人会の皆さんにあえて、疲れもなくなった。その後、食事に行き、世界の食べ物があつた。デザートはあまりの甘さに食べるができなかった。

ホストファミリーはとても優しくあつた。飲み物も食べ物も、テレビをみるのも自由にしていゐると言われたので驚いた。部屋はベッドが大きくて寝心地がよさそうだ！

8月13日(木) 曇りのち雨

昨日からの疲れが残っていたので1日やっゐりけるか心配だったけど、色々な場所を観光してゐくにつれて眠気もさめてとても楽しかった。

市役所内は一人一人部屋が個室だったので、日本とは違ふなと思つた。市長さんはすぐフレンドリーで政治面だけでなく、動物の保護活動をしている事を知り、日本でも同じように保護に力を入れるとさらに良くなるのではないかと思つた。

また、ここに来て家族同士の会話が多ゐることにも気づかされた。ホストファミリーは知り合つてから喧嘩をした事がないと言つていたので、たくさん話す事が仲良くなる秘訣なのかなと思つた。

8月14日(金) 雨のち晴れ

朝、食事を済ませると、サナエさんがサンタフェはここよりも気温が10℃くらい下がつてゐると言つていたので驚いた。また、外に出ると雨が降つてゐて、乾燥してゐるところで貴重なものが見ることができたので良かった。

ショッピングセンターがとても大きくて1日では十分に回れないくらいだつた!!

8月15日(土) 晴れ

朝からインディアンのエリアへでかけた。本場のインディアンはとても迫力があゐり、感動した。その人たちはどちらかというゐ、見た目も肌の色も日本人と似てゐて、その料理も結構口にあつたので、なんだか嬉しかった。

またホームパーティでは、色々なレクリエーションもあゐり、おいしいご飯もあつて、とても楽しい時間を過ごせた。同年代の人たちも来てくれて、色々な話が出来た。

8月16日(日) 晴れ

サンディアマウンテンに着くと、まず山の頂上へ行く為、スロープに乗つた。山が一望できてとてもキレイだつた。冬はもっとキレイだと聞いて、冬にも来てみたいなと思つた。山頂は酸素が薄い上、太陽が照つてゐるのに寒くて不思議な感じがした。

その後、ヤスコさんの家で交流パーティがあゐり、私たちは沖縄についての発表をした。皆、私よりも沖縄に詳しくて、逆に問題を出されたりして、沖縄を再確認できた。サナエさんが、どこに行つてもウチナーンチュは必ず集まつて、いつでも心を通わせることができるといつていたので、なんだかすごく心が温かくなつた。

8月17日(月) 晴れ

4時間半かけて目的地のワイトサンドへ移動した。からつとして晴れていたので、すごくまぶしかった。車が到着すると砂丘が一面に広がつてゐて、すごく感動した。でも砂丘の白さと太陽の光で反射して暑すぎた。砂丘は砂浜にも見えるし、雪にも見えてすごく不思議な感じだつた。そりすべりも良い思い出になつた。

4時間半の車の移動は長くて疲れたけど、みんなで歌を歌つたり、色々な話をして笑つたりできたので、すごく楽しかった。

<p><u>8月18日(火) 晴れ</u></p> <p>朝からサナエさんの家に集まってみんなで踊りの練習をした。練習を終えると衣装に着替えて大学へ移動した。舞台がかなりオープンな場所で創造していたのと少し違っていた。沖縄の伝統文化(踊り、歌、習字)をたくさん紹介できたことはすごく良かった。</p>
<p><u>8月19日(水) 晴れ</u></p> <p>午前中の間ショッピングをした。</p> <p>その後、ジュエリー工場の見学で初めて売りに出される前の商品を見た。やはりアメリカでも不景気の影響があるんだと思い、少し悲しくなった。</p> <p>その後、タイのお寺へ見学へ行った。素晴らしい場所で心が癒された。</p>
<p><u>8月20日(木) 晴れ</u></p> <p>インディアンが昔住んでいた竪穴式住居に行きながらハイキングして、とても疲れた。</p> <p>ロスアラモスの原子力博物館で、人間は悲しいと思った。</p> <p>原子爆弾のことを以前よりもっと深く知ることができた。</p> <p>国立公園では、鹿やコヨーテを見ることが出来てよかった！</p>
<p><u>8月21日(金) 晴れ</u></p> <p>サンタフェは都会だった。1本も釘が使われていない教会の階段を見学できてよかった。とても不思議だった。</p> <p>送別会で食べたご飯がとても美味しく感動した。食事をして、写真やDVDを観て笑ったりした。皆10日間を振り返り泣いていた。</p> <p>明日は泣かないでお別れしよう。またいつかアルバカーキに行く!!</p>
<p><u>8月22日(土) 晴れ</u></p> <p>みんなとバイバイ。悲しかったけど、泣かなかった。笑ってさよならできたと思う。アルバカーキまた行きたい！</p>
<p><u>8月23日(日) 晴れ</u></p> <p>成田空港に着くと、雰囲気は違っていたので、日本に帰ってきたんだなと実感した。夏休みももう終わりだけど、楽しかった夏の思い出を胸に新学期も頑張っていこう!と思った。</p>

☆カナダ・バンクーバー☆

8月12日(水) 晴れ

9時間の飛行機の旅は疲れたけど、空港の出口でカナダに住むウチナンチュのみなさんが旗を持ち、温かく出迎えてくれてとても感動した。

空港のすし屋で、具志堅さんとパターンソン家の子どもたちとお食事とゆんたくをした。日本に来た事もあって、日本が大好きだと言われて嬉しかった。子どもたちが日本のドラマやマンガをたくさん知っていて話題が尽きなかった。フリータイムの日のスケジュールや計画を一生懸命考えてくれて嬉しかったです。

8月13日(木) 雨

シーバスに乗って市場に行った。お店を見たり、ケーキを食べたりした。

スタンレーパークは自然が豊かでリスとか見ることができたけど、天気が悪くて残念だった。

お昼はタイ料理屋さんでタイ料理を食べた。量が多くて驚いた。

電車の中に東洋人、インド人、白人、黒人と様々な人種がいた。

一緒にいた隼人くん「沖縄の人に会えてよかった。みんな親切。」と言われて嬉しかった。ウチナンチュの良さを再発見できた。

8月14日(金) 晴れ

今日はホストファミリーに連れられて8時間のドライブに行った。ウイスラーに行くとマウンテンバイクのイベントをやっていて、街にたくさんのマウンテンバイクファンやバイクがあつてにぎわっていた。マウンテンバイクのレースも初めて見たので楽しかった。

途中、ところどころで車を止めて景色を眺めたりした。日本の自然とは全然違う大自然を初めて見て、すごく感動して鳥肌がたった。本当に良い経験になった。

8月15日(土) 晴れ

スカイトレインでガスタウンに行った。そこでガスで動く古い時計を見たり観光したりした。オリンピックショップやトーテムポールの店に行って買い物もした。ガスタウンのレストランに行ったとき、皆に誕生日を祝ってもらって嬉しかった。

8月16日(日) 晴れ

朝、早起きしておにぎりを大量に作った。車に荷物を乗せてお父さんの車でトラウトレイクに行った。

ピクニックではバーベキューを食べ、パレーボール、チーム対抗のゲーム、ドーナツ食い競争と綱引きをした。

沖縄についての発表もした。沖縄県人会の方達と一緒にエイサーも踊った。発表は自分の英語が読めなくて日本語でやってけど、終わった後に県人会長の奥さんが作り方写させて！と言ってくれたので嬉しかった。

戦前に移住してきた94歳の知花さんというおじいもいた。方言しか話せなくて会話をするのが少し大変だった。

8月17日(月) 晴れ

Japanese Hallは大きかった。子どもたちも可愛かった。バーナビー歴史村が閉園で入れなかったの、奥間さんの仕事場へ行った。歯がいっぱいあった。全部の歯を覚えていると聞いたときは驚いた。

8月18日(火) 晴れ

今日は色々な仕事見学と国境、オリンピック会場を見学に行った。仲泊さんと具志堅さんが案内してくれた。カナダで働く沖縄の人たちはすごく生き生きとしていて楽しそうだった。生け花用の花を作っている宮城さんはもうすぐ移り住んで40年たつと聞いてびっくりした。

8月19日(水) 晴れ

つり橋に行った。初めてあんな高い所にあるつり橋を渡る事ができてすごく楽しかった。下を見れば川が流れていて、自然の中にあるつり橋を渡って気持ちよかった。

夜は送別会を開いてくれた。皆で歌を歌ったり、サンシンをひいたりしてとても楽しい時間だった。料理もすごくおいしかった！！

8月20日(木) 晴れ

UBCにある博物館に行った。大ガラスがたくさんいた。不思議な物ばかりだったけど、見ていてとても楽しくてずっと居れそうだった。

その後は、お昼を食べてプレイランドに行った。木でできたローラーコースターが一番後ろに乗ったが、落ちるたびにお尻が浮いて落ちそうだった。お化け屋敷は怖くてずっと目をつぶっていた。なんとと言っても Aya と乗ったバンジーブランコはとても怖かったけど楽しかった！

8月21日(金) 晴れ

フリータイムだったので、ショッピングに行き、お土産を買った。

その後、ホストファミリーとその友達とサッカーをした。夜はホストファミリーがお別れパーティしてくれて、サッカーと一緒にやった友達も来てくれてとても楽しかった！

8月22日(土) 晴れ

ホームステイ最終日。朝から大好きな家族との別れは辛かった。前半にお世話になった大山さんも来ていて本当の家族のように見送ってくれて、別れがとても悲しくなった。ジョン兄やレイナ姉ちゃんにハグされたときに、堪えていた涙が一気に溢れ出してしまった。別れは辛いけど、また大きくなって遊びに来たらいいんだと思うと少し悲しさは減った。

8月23日(日) 晴れ

長かったようで短すぎた10日間。本当に楽しかった。いつでも感謝の言葉を大切にしていきたいと思える旅だった。

☆米国・アルバカーキ☆



アメリカ

キリスト教学院短期大学 1年 円城寺 寛子

夢であったアメリカ。今でもアメリカに着いた時のあの空気を覚えています。

今回、この企画に参加することで新たな自分を発見することもでき、本当に良かったです。

私たちがしか味わうことのない貴重な体験をたくさんさせていただきました。特に私の中でインディアン祭りを見た時は、本当に感動しました。映画の世界という想像をしていたので、まさか家庭に入りご飯を頂くなんて考えもしませんでした。そして、アメリカの大学でまさか踊りも披露するとは思いませんでした。急遽で大変でしたが、とてもいい経験ができました。また、自分の特技である日本伝統の書道を伝えられた時は、本当に嬉しかったです。

そして、何よりこの企画を通して感じたことは、やはり英語を学ぶべきだと、強く思いました。話す事ができたらもっと多くの方々と話す事もできたし、自分の中でもっと世界が広がっていくんだろうなと感じました。けれど逆に感じたことは、子どもと関わる時、一番大切なのは言葉じゃないんだと、大切なことに気づきました。好きという気持ちさえあれば、どんだけ言葉が通じなくても仲良くなれるんだなと思いました。将来保育士を目指す私にとって、とてもいい経験ができました。ホストファミリーには、いっぱい迷惑をかけたけど、一生懸命伝えようとしてくれたり、いろんな所に連れて行ってもらったり毎日楽しく過ごすことが出来ました。また、県人会の方々の皆さんに本当に温かく歓迎していただき、とても嬉しかったです。

10日間という短い期間ではありましたが、一日一日濃くて集まる事のなかったこのメンバーで過ごしたことは、本当に忘れられないと思います。最高の思い出をありがとうございました。

皆に出逢えて良かった！ありがとう。



ホームステイ

宜野座高校 3年 比嘉 峻

僕達ホームステイメンバーは、ニューメキシコとカナダに分かれていて、僕はニューメキシコに行く事になりました。

成田空港からニューメキシコまで9時間かかって退屈と窮屈でとても疲れました。ニューメキシコの空港で県会のお父さんやお母さんたちがとても暖かく歓迎してくれて僕の新しいお母さんの美代子さんとお父さんのパッテンさんも優しく僕を受け入れてくれました。皆で挨拶をした後に、近くのレストランで食事をしました。食事は全部バイキング制で、世界の料理がたくさんあってどれもこれも美味しそうでした。ケーキは甘すぎてとても食べ切れませんでした。食事が終わり、皆それぞれの家に帰りました。

僕の家は、外から見ると小さく見えたけど、中はとても広く大きく感じました。僕の部屋は一人部屋で窓から見る景色は山がとても大きくつながっていて、沖縄では見る事ができないなと感動しました。

翌日からはアルバカーキの市長さんに会ったり、恐竜博物館に行ったり、ショッピングセンターに行ったり、インディアン村に行って踊りを見て、山でハイキングをして午後にはバーベキューをして県会の方で楽しんだり、ホワイトサンドという白い雪みtainな砂漠に行ったり、大学で沖縄の踊りやエイサーを披露したりして、沖縄では経験できない体験や貴重な事をする事ができ、僕はホームステイメンバーとの思い出を10日間だけ沢山作る事ができて本当に嬉しかったです。



ホームステイを終えて
開邦高校 2年 前里 静香

今回のホームステイは、最高の思い出ができて旅でした。

最初は、初めての海外に少し不安もありました。しかし、アルバカーキに着いてホストファミリーの方々を見ると、今までの不安が安心へと変わりました。ホストファミリーの皆さんは、みんな明るく元気で、私たちに優しくしてくれました。

アメリカでの初ディナーはバイキング。日本では見たことのない食べ物がずらっと並んでいました。おいしそうだなと思って食べたものがすごく辛かったり、またアメリカンスウィーツは格別に甘いという事も身を持って体験できました。この 10 日間で一番心に残っているのは、インディアン祭りです。この祭りでは、豪華な衣装に身をまとった人たちが、何時間もかけて伝統の歌を歌い、踊りを踊っていました。この儀式の時は写真も私語も厳禁だったので、辺りはインディアンの声と身に付けている装飾品が重なり合って聞こえる音だけで、まるで違う世界にいるような気分でした。こんな風に自分たちの文化を残していく事はとても大切だと思うし、これからも守っていくべきだと思いました。

また、ニューメキシコは貧富の差が大きく、地区によってはすごく廃れた所もありました。それを見たホストマザーのさなえさんは、「ここの人もそうだけど、人は生まれた土地や環境ではなく、その人自身がどう生きるかが大切なんだよ。」と言われ、その時に自分が今まで持っていた異国へ対する偏見に気づかされました。“アメリカ人はこうだ”と決め付けるのではなく、一人の人間としてみる事で様々な共通点を見つけることができました。

いつかまたアメリカへ行って、今度は自分の伝えたいことをたくさん話せるように英語の勉強を頑張ろうと思います。とても貴重な体験をさせて頂き、県人会の皆様をはじめ、ホームステイ派遣事業に携わった方々に本当に感謝しています。



ホームステイを経て
浦添商業高校 2年 新垣 佑佳

夏休み期間中に約 2 週間アメリカ、ニューメキシコ州・アルバカーキにホームステイに行ってきました。

1 日目、17 時間のフライトを経て、アルバカーキの空港でホストファミリーと初対面して、そこからすぐ皆でディナーのためバイキングレストランへ行きました。その翌日からずっと観光で朝早くから夜遅くまで、そしてニューメキシコ州のすみからすみまでといていいほどたくさんの観光地に行きました。

オールドタウンに行ってお土産店を見たり、4 時間かけてワイトサンドに行ったり、有名なルート 66 を通ってカジノの中にあるバイキングで食事をしたり、ニューメキシコ大学に行って沖縄の伝統芸能として沖縄の踊りを披露したり、サンタフェーに行ったり、市長さんに会いに行ったりとアメリカの文化を学びながら、英語を学びながら日本とは全く違う環境で楽しく、沢山の事を学べて、そして体験出来てよかったです。

日本に帰ってきて、すぐアルバカーキが恋しくなったりと逆ホームシックがありました。海外に出る前と海外に出た後では、将来の夢も進路も変わってびっくりしました。

ホームステイに参加して、アメリカの文化や語学をもっと学びたいと思いました。周りから聞く海外の話と自分の目で見た実際の海外とは全然違って、やっぱり周りからの情報と自分で得た情報とは印象も感覚も変わってくるんだなと思いました。

2 週間という長いようで短い期間の中で、アルバカーキの県人会の皆様の協力と県庁の方々が立てたプログラムのおかげで世界を見ることが出来てよかったです。

この体験を通してこれからの将来をどう活かしていくか、考えていきたいと思います。

.....



15日のこと

興南高校 2年 宮 麻里沙

インディアン文化センターとインディアン祭りに行きました。私は初めてインディアンを見ました。自分の想像では、細くて口に手を当てながら音を立てて飛び跳ねていると思っていました。しかし、まったく違いました。本物のインディアンは、ぽっちゃりしていて、口に手をあて音を立て、飛び跳ねることはやっていませんでした。私のホストファミリーのモリスさんから、なぜインディアンはぽっちゃりしているのかという事を聞きました。それは、昔あまり食べ物が十分に食べる事ができなく、特に冬は食べ物が全くなく、インディアンの人たちはガリガリに痩せていたそうです。だから冬はまったく食べ物がなくて、夏にできるだけたくさん食べていたということです。しかし、今は食べ物が十分にあるので、インディアンの人たちはぽっちゃりしているそうです。

インディアンの踊りを生で見ることができて本当に感動しました。そして女性の衣装がとてもかわかったのを覚えています。一人一人飾りや色などが違って、とてもかわいかったです。自分もこの衣装を着てみたいなと思いました。インディアンの女性と数人の男性の髪の毛がとても長かったのも覚えています。

家でのパーティーはたくさん子どもたちが集まりました。最初は緊張していて、全く会話ができなかったけど、だんだんと仲良くなり会話もできるようになりました。2種類のゲームもとても盛り上がりました。みんなとても仲良くなり、とても楽しかったです。

.....



最高の夏

カトリック中学高等学校 1年 大城 聖里子

今年の夏は今までの中で最高の夏になりました。出発する前日からワクワクしていて、あまり不安はありませんでした。

私にとっては初めての海外で、機内食や入国審査までもが楽しく感じました。そして、アルバカーキに着くと、県人会の方々が歓迎してくださり嬉しかったです。県人会の方々はとても気さくで良い人たちばかりで安心しました。

ニューメキシコの景色はとてもきれいでした。町並みはとても広々としていて、統一感があり、やっぱり沖縄とは全然違うなと思いました。町並みだけではなく、自然の景色も素晴らしかったです。ケーブルカーでサンディアアマウンテンに上り、山の上から景色を見た時は感動しました。どこを見てもすぐに海がある沖縄とは違い、山は果てしなく続いていて、アメリカの広さを実感しました。また、バンダリア国立公園では、野生のシカやコヨーテを見ることができ、ホワイトサンドではソリで遊んだりして、とても楽しかったです。

このホームステイでは、たくさんのめずらしい体験もできました。市役所やタイのお寺、インディアン祭りの見学などです。この中で私が特に面白いと思ったのは、インディアン祭りです。インディアンの衣装は一人ずつ違ってユニークで、踊りは何か不思議な感じがして面白かったです。こういう文化がまだ残っているのはすごいと思いました。

今回のホームステイでは、思ったより英語を話す機会が少なかった気がします。でも、英語を話す機会がある

ときは、頑張りました。しかし、話すのは思った以上に難しく、大変でした。その分、ちゃんと伝わったときには、嬉しかったです。パーティーでリリーちゃんという子におはしの使い方を教えることができたのが特に嬉しかったです。

楽しく、充実した 10 日間はあっという間に過ぎてしまいました。アメリカの文化に触れるだけでなく、大学で発表した琉舞などを通して、沖縄の文化にまで触れることができ、とても良い経験になりました。いつかまた、絶対にニューメキシコに行きたいです。このホームステイを支えてくださった皆さん、本当にありがとうございました。



アルバカーキ

古堅中学校 3年 池原 可連

私は初めて知らない方々と海外へ行きました。最初は、年上の方々と話す事が不安でした。しかし皆さんとても優しく、面白い方でした。

アルバカーキの県人会の人は、とても優しく面白くて、沖縄で会ったことのある方ばかりで、いつも笑わせてくれました。皆少し固くなっていましたが、日が立つにつれ県人会の方と仲良くなりました。毎日皆と県会の方々と会うので、次の日は何をやるのかなとてもワクワクしていました。

アメリカ流のパーティーにも参加しました。まゆみさんのお家パーティしました。全てが初体験でした。ドーナツを口で取るゲーム、手で触って何かを当てるゲームもとてもおもしろかったです。沖縄ではできない体験ができました。

インディアン、山登り、ワイトサンド、ショッピング、ロス・アラモス全部がおもしろかったです。

しかし、だんだん日本に帰る日が近づいてきました。私はこのままアルバカーキに残って住みたいと思うようになりました。県会の方々がお別れ会を開いてくれました。最後のお礼の言葉の時に、涙が皆出て止まりませんでした。皆とハグして、もうアルバカーキと県会の方々から離れたくありませんでした。しかし、宮城さんが困るそうなので帰ってきました。そして佑佳さんと二人で決めました。私が高校 2 年生になったら佑佳さんとアルバカーキに行きます。

この 10 泊 12 日のホームステイは、一生心に残る最高の思い出になりました。アルバカーキでの事が昨日のように思い出すことができます。本当に良かったです。

ありがとうございました。



ホームステイに参加して

金城中学校 3年 盛田 都乃

私は 8 月 12 日から 10 日間、アメリカのニューメキシコ、アルバカーキへと派遣されました。

アメリカへ行く前は、正直不安でしたが、空港に着いたとたん、その気持ちも消えました。そして県会の方々が温かく歓迎してくれました。その後、ホストファミリーの紹介をして、車でレストランへと向かいました。たくさんの料理がありました。

翌日の朝、家の庭に出てのんびりしていました。すると、ハチドリが飛んできました。私たちはとても楽しくてハチドリをずっと観察していました。

しかし 3 日目、私は風邪にかかってしまいました。その日のパーティーには参加できず、4 日目には病院に行きました。原因は水分不足だと思われました。アルバカーキは土地が高く、乾燥していたので、水を沢山飲まないで頭痛や吐き気がするそうです。病院に行く事になったけれど、私自身は、皆とは違う行動であまり体験できな

い事を体験したので嬉しかったです。でも、パーティには行きたかったです。

次の日からとても楽しい日々が続きました。もう沖縄に帰りたくないと思いました。一番印象に残っているのは、サンディアマウンテンのハイキングです。風邪から復活した翌日でした。病気が治って良かったと心の底から思いました。

私は、この10日間で、色々なことを学びました。2日間は体調を崩したけど、そのおかげでアメリカの病院も見ることができました。私たちのホストファミリーのおばあさんは75歳とは思えないくらい元気で、しかも色々な話を聞かせてもらいました。

私はこのホームステイに参加して、沖縄の移民の人たちのことを知りました。また、目的にしていた『異文化』についても分かりました。また県人会の人たちとの交流も楽しかったです。私は、この思い出を一生忘れません。

また、アメリカのニューメキシコ、アルバカーキに行きたいです。

☆カナダ・バンクーバー☆



平成21年度 海外県人会ホームステイ派遣事業報告書

ぐしかわ看護専門学校 喜屋武 春菜

今回の県人会ホームステイに参加できたことで、沢山の事を経験することができました。一番印象に残っている事は、成田からカナダに向けて長時間かけて飛行機で移動し、疲れもピークに達している中、バンクーバーの空港ロビーで紅型の旗を力強く振って「いらっしやい」と多くの県人会の皆さんが笑顔で迎えてくれました。

この光景を見て、嬉しくも疲れも吹っ飛んでしまいました。メンバーはそれぞれのホームステイ先に別れ、私は仲泊さんの家でお世話になりました。仲泊家は、面白くて頼れるお父さん、お喋りなお母さん、優しいケン兄々、料理上手なカヤ姉々の4人家族です。

仲泊家の夕飯では、ターキーやカヤ姉々の手料理、ピザなど毎日のご馳走でした。

とても良かったことは、ケン兄々とカヤ姉々と一緒に、送別会のときに三味線を弾き歌ったことです。

県会のみなさんも三味線を弾くと、とても喜んでくれた事が一番嬉しかったです。

次に又、カナダに遊びに行く時までには、もっと練習して、県会の方々の前で披露したいと思っております。

十日間のスケジュールを県会の方々が交代で連れ添い案内してくれました。私達のために、バンクーバー市内の至るところを案内してもらい、見る物全てに魅了されました。

カナダに移民してきた県会の方が、どのような仕事をされているかも見学し、違う土地で立派に働いている姿を見て凄いなと思いました。私も県会の方を見て、将来カナダで働きたいと思いました。

ケン兄々やカヤ姉々は私達を地元の友達のところへ遊びに連れて行ってくれました。その友達は皆、英語しか喋れず私は相手の話を聞き取るのに必死で、簡単な英語やジェスチャー等を交えながら話すのが精一杯でした。しかし、ケン兄々のお友達はみんな優しく接してくれました。その事もあり、改めて英語を喋れるようになりたいと強く思いました。またカナダに行くときまでに英語力を磨き、カナダの友達と沢山会話を楽しみたいと思います。

今回のホームステイで沢山の人の出会い、沢山の事を見て、感じ、新しい目標も出来ました。県会の方々の、ホストファミリー、カナダの友達と今後も繋がって行けたらと思います。また、ホームステイのメンバー10人とも、仲良くなり、このメンバーでまたカナダにいけたらいいなと思っています。

県人会の皆さんのお陰で、多くの事を経験し、沢山の刺激を受けました。県人会の方は優しくて、10日間私達を本当の家族のように迎えてくれました。感謝してもきれないほど、一生の思い出になりました。



カナダバンクーバー

小祿高校3年 平良 日季

私は、8月12日から8月23日までカナダ県人会ホームステイに行きました。カナダに出発する前は、初めてのホームステイと海外で不安と期待でいっぱいでした。8時間の長い間、飛行機に乗り無事にカナダに着き、カナダ県人会の方々を迎えていただきました。とってもあたたかく迎えていただいて、出発前の不安は全くなり、これからのカナダでの生活が楽しみです。カナダについての第一印象は、人や車が多い割には空気がとても澄んでいて、ひんやり冷たくて気持ちがいいなという感じでした。

私のホストファミリーの辻本さんの車に乗り、バーナビーにあるお家に向かいました。車の中から見る、バンクーバーの景色はどこを見ても緑が多くてひとつひとつの家が大きくて、全部が同じに見えました。街を歩く人たちも、日本のようにみんな同じ格好ではなく半そでの人もいれば、厚着をしている人もいて、自由な感じがして好印象でした。カナダでの生活は、見るもの全てが大きかったです。一番驚いたのは、ファミリーのお父さんに連れて行ってもらったウイスラーやリルエットなどの大自然です。日本の自然とはケタ違いで、とても感動して鳥肌が立ちました。絵画を見ているような気分で、こんな大自然を前にしていることが信じられませんでした。

カナダでは、たくさんの人に出会い刺激をいっぱい受けました。そのことを忘れず、自分の夢に生かしていきたいと思います。

本当にカナダに行って良かったと思います。



I'm in Vancouver

普天間高校2年 天久 真奈帆

8月12日から23日までの12日間、私たちは11人でカナダのバンクーバーに行きました。行く前は英語喋れなかったらどうしよう、食事が合わなかったらどうしよう、ホームステイ先の人たちが怖かったらどうしようと不安がいっぱいありました。当日の朝は緊張して、とても早い時間に起きました。成田からバンクーバーへはエアカナダの飛行機で行きました。初めての国際線だったので、とても嬉しかったし、機内で英語で「ポークとビーフどちらがいいですか？」と聞かれたときに、「国際線に乗っている！」と実感してテンションが上がりました。バンクーバーについて入国審査官がとても怖かったけど、県人会の方々温かく迎えてくれてとても嬉しかったです。外に出ると晴れているのにとても寒かったです。家では、お母さん、ケン兄ちゃん、カヤ姉ちゃんが迎えてくれました。英語で会話すると思っていたけど、みんな日本語が話せたので、緊張もあまりせず、色々な話をすることができました。ケン兄ちゃんの友達とサッカーをしたり誕生日会をしたり色々なところに買い物や食事に連れて行ってもらうことが出来ました。どこに言っても、食べ物の量が多くて驚きました。食べ物が合わなかったらどうしようと心配だったけど、カナダの料理も他の色々な国の料理も食べる事ができて嬉しかったです。

プログラムの中で一番楽しかったのはプレイランドです。ジェットコースターに乗ったことがなかったのでとても怖かったけど、色々な乗り物に乗って度胸がつけました。神里さんと人生相談したり、将来の夢について話したり、移民した事での苦労や二世、三世の子達の悩んでいることなどを教えてもらって色々なことを知りました。

少しだけかもしれないけど、自分の中の世界が広がったし、物の考え方や見方も良い意味で変わったと思います。

今度は冬のカナダを体験してみたいなと思いました。それから、もっと英会話を勉強してケン兄ちゃんの友達とももっと話せる様になりたいです。新しい目標もでき、とても充実したプログラムになりました。県人会の方達も一緒にカナダに行ったみんなとも、これからもずっと交流を続けてまたこのメンバーでカナダに行きたいです。

Thank you very much!!



国際交流に参加して

向陽高校2年 宮城 里佳

8月12日～23日の10泊12日、カナダ・バンクーバーの県人会ホームステイに参加しました。英語圏の国に行く事は初めてで、英語が苦手な私にとっていろいろ不安な事もありました。しかし、いざカナダに着くと空港で、県人会の方々が暖かく迎えてくださって私の中の不安な気持ちは一瞬にしてなくなっていました。カナダといっても、英語で話すのではなく県人1世の方だったので、日本語やウチナーグチが殆どでした。しかしそれでも、2世にあたる子供と接する時は英語混じりの会話が多かったです。私がお世話になった2家族では、お父さんには英語で、お母さんには日本語で伝えていて、驚きました。どちらの家も、「日本語も大事だから、残さないよね」と言っていて私は感心するばかりでした。カナダでの10日間のプログラムの中で印象に残っている事はたくさんありますが、その中でも特に印象深かった事が、県人会ピクニックに参加した事と国境・オリンピック会場に行った事です。県人会ピクニックでは、バンクーバー市内にある公園トラウト・レイクに行きました。このピクニックは、バンクーバー県人会の方々がたくさん参加していて、パン食い競争やチームを組んで行うゲームなどいろいろ考えてくれて、とても楽しかったです。また、各家庭から持ち寄ったおにぎりと一緒にバーベキューもしました。おかずの1品として、ゴーヤーチャンプルーがあり、食べてみると沖縄で普段食べている物よりも甘くてとても食べやすい感じがしました。バンクーバー県人会は規模がとても大きくて、戦前に移民してきたおじいちゃんにも会って話をする事が出来て良かったです。ピクニックには県人2世や3世にあたる子供もたくさんいて、2ヶ国語を話していた事にびっくりしました。また、県人会のエイサー隊と一緒に『ミルクムナリ』を踊ることが出来て楽しかったです。18日には、アメリカとカナダの国境に行きました。国境には、大きなアーチが建っていてそのアーチはアメリカとカナダ両国の長い平和の象徴とされているという事でした。アメリカの国旗とカナダの国旗それぞれが、花で作られていて凄く綺麗でした。アメリカに入ったらダメって言われていたけど、国境に連れてきてくれた県人会の人に大丈夫だよと言われてアメリカに入りました。あまり実感が沸かなかったけど、国境を跨いだと言う事にとても感動しました。国境に行った後に、バンクーバー五輪大会の会場になっているスピードスケートの会場の案内ツアーに行きました。オリンピックの会場になるだけあって、とても大きくそしてとても広いと感じました。案内の方の話によると、バンクーバーのオリンピック会場は全てが環境に優しいエコの会場になっていると言っていました。それを聞いて、さすが自然を大切にしている国だなとおもいました。カナダは本当に自然豊かな国で、リス・山犬・カナダグース・アライグマ・狸といった野生動物がいて感激でした。残念ながら、スカンクは見る事が出来ず匂いだけを嗅ぐことができ、私が想像していたより臭い匂いではなくコーヒーみたいな匂いがしました。また、気候が沖縄と全然違って夏なのに13度とか夜は本当に寒くて冬みたいでした。夜は9時～10時くらいまで明るくて日が沈むのが遅いので、沖縄の感覚で過ごしていたら夜中の12時とかになっていたりもしました。今回この県人会のプログラムに参加し、昔、県人の多くの方々が企業移民や労働移民などでカナダに移り住み、県人会を作って現在

もたくさんの活動をしている事が分かり同じ県人としてとても感激しました。10日間という短い期間にいろいろ計画してくれて毎日とても楽しむことが出来ました。普通の観光とは違い、多くの県人会の方と触れ合うことで、世界のウチナンチュとの架け橋になっているのかなと感じたりもしました。私自身、他国の県人会と交流する事が初めてでどんな人がいるのか想像もつきませんでした。けれど、何処に居ても、やっぱりウチナンチュは暖かくて心優しいと思いました。カナダに行っても「イチャリバチョーデー」と言ってくれた事に感動して、思わず涙が出そうにもなりました。沖縄からしたらとても遠く離れているカナダですが、短い中で体験出来た多くの事は私の中でこれからとても大きな存在として残っていくと思います。また、このプログラムに参加させてくれた両親や学校の先生、引率者の方々にとても感謝しています。この経験が将来、私自身の生活で活かす事が出来たらいいと思います。貴重な経験をさせてくれてありがとうございました。



この事業に参加して
首里高校1年 上原 早織

今回、県人会のホームステイで私は初めて海外に行く事になりました。生まれて初めてパスポートを作ったりと出発準備はとても大変で、派遣が決まった時の喜びよりも、出発準備の大変さのほうが心に残っているような気がします。

事前研修では、OB やOGの体験談とかを沢山聞いたりして、とても楽しみで当日が待ち遠しかったです。あんなに待ち遠しかった出発日も明日と迫った時、私はすでにホームシックになってしまいました。今まで何気なく話していた日本語が使えなくなると考えると、私は自分の意思を県人会の人にちゃんと英語で伝えられるのだろうか、ちゃんと入国審査で基本的なことを話せるか、国際線で食事を選ぶとき、自分の食べたいものをお願いできるかといろいろと不安な事が出てきました。

出発当日、私の心ははじめての海外旅行への不安と緊張でいっぱいでした。長い長い空の旅を終え、カナダに着くと当たり前だけど色々な国の人が出て、それぞれ自分の国の言葉で話していて、自分だけ浮いている様な気がしてたまりませんでした。不安の中、県人会の人が笑顔で出迎えてくれて少し安心しました。行く前は、みんな外人の様だろうと考えていたけれど、私たちと同じ顔をしていて、日本語で会話してくれていたのもとても嬉しかったです。

午前から6時くらいまでみんなで観光し、その後はそれぞれのホームステイ先でゆっくりと過ごすというスケジュールでした。

私が一番みんなと回って楽しかったのはプレイランドです。日本より迫力がある乗り物ばかりで何回乗っても飽きませんでした。

ホームステイ先の人といて一番楽しかった時間はフリータイムです。私は、前半5日、後半5日でホームステイする家が違ったけれど、両方の家族とも過ごして楽しかったです。大山さんの家は、みんな子どもが自立して家に居なかったけど、ワーキングホリデーで着ているミナさんと買い物に行ったり、パパさんと食べに行ったりとても本当の子どものように大事にしてもらいました。逆に棚原さんの家は、子どもがみんな一緒に住んでいて楽しかったです。子どもはみんな私の年上でお姉ちゃんとお兄ちゃんが出来たみたいで凄く嬉しかったです。大山さんの家も棚原さんの家も、私を本当の子どものように接してくれたし、とても大好きになりました。

私がカナダに来て思ったことが一つあります。それは、アジア系の人が多かったことです。詳しくは聞けなかったけど、これも移民と何か関係があると思います。この課題は、きちんと自分の力で解決したいと思います。

このホームステイに参加して、たくさんの県人会の人と触れ合うことが出来ました。最初はホームシックになる

と思っていたけど全くならなくて、カナダが大好きになってしまいました。色んな日系の方の職場に見学に行ったりして、将来カナダで暮らすのもいいなと思いました。少し将来への視野が広がったような気がします。初めての海外で不安もありましたが、参加して本当に良かったと思います。これから、もっともっと世界的な視野を広げて自分の夢を叶えたいと思います。



カナダ

首里東高校 1年 竹田 悠人

8月12日～23日の12日間、僕たちはカナダのバンクーバーへホームステイをしました。最初、合格通知が届いたときは、とても驚きました。しかし、1回目のオリエンテーションの時に僕以外の人が女性しかいなかったのがびっくりしました。

それから、2回目のオリエンテーションを重ね、8月12日に出発しました。初めての国際線で、少し緊張しましたが、思ったよりあまり国内線と変わりませんでした。

現地、カナダに到着し、神里さんをはじめ県人会の熱烈的な歓迎を受け、僕は新井さん宅へ向かいました。車の中では、時差ぼけで眠かったのですが、ハルキとハヤトの質問攻めにあって嬉しい反面、眠気に襲われ辛かったです。1日目は、時差ぼけで寝てしまいましたが、半ズボンに上半身裸で寝てしまい、寒すぎて5時には起きてしまいました。4,5日くらい寒い日が続きました。ガスタウンはとてもいい町だったのですが、とても寒かったです。

3日目はフリータイムで荒井ファミリーと近くの映画館へ行きました。日本でも上映している「G.I.ジョー」を見ました。字幕無しの英語だったのですが、大体内容もわかり、とても面白かったです。それから、県人会の方の計らいで、現地の人たちとサッカーをさせていただきました。みんな経験者じゃないと言っていたのですが、とても上手でとても楽しかったです。

4日目は寒さで起床し、ショッピングに行きました。イケメンのケン兄々と綺麗なカヤ姉々に案内してもらい、ガスタウンを回りました。昼食を食べたスパゲティのお店の幽霊話が怖かったです。

5日目は、湖でピクニックがありました。色んなゲームをして楽しかったです。また県会のピクニックと聞いたので、10にくらいかと思っていたのですが、80人集まったのでびっくりしました。

6日目は、日本語学校に行きました。カナダ人やアジア系の人たちだったのに日本語がとても上手ですごいと思いました。また、県系人の歯科技工士の職場へ行きました。とても細かったので大雑把の僕にはちょっと無理な仕事かなと思いました。

7日目は、国境に行きました。自然が豊かでとてもきれいでした。そして、オリンピック会場に行きました。スケートリンクをサザンヒルと比べてしまい、大きさに驚きました。

8日目は、つり橋とダムに行きました。つり橋は小さい方だったのですが、高所恐怖症の僕には高くて怖かったです。ダムはとても自然が豊かで「カナダ」という感じがしました。とてもスケールが大きかったです。

9日目は、プレイランドへ行きました。ジェットコースターとかバンジージャンプとか怖い僕には大変な1日でした。でも楽しかったです。

最後の日は、お父さんに会えなかったのですが、県人会の皆さんに見送ってもらい、バンクーバー空港をあとにしました。楽しかった日々が多くて別れが悲しかったです。でも、この体験で学んだ事を生かし将来へつなげていきたいです。



カルチャーショックと沖縄再発見

開邦高校 1年 豊川 理恵

文化の違うカナダに行き、日本との文化と違うので受けたカルチャーショックがいくつかあります。

まず私が驚いたのはカナダの食文化です。食事を食べる時の量に驚きました。沖縄で食べる食事の量の 2 倍ほどあり、すぐ満腹になりました。それに加え食事と食事の間隔が短いので、カナダにいてあまりおなかが空いた事がなかったです。

私が第二に驚いたのは人種の多さです。カナダへ行く前は、公用語はフランス語だと聞いていたので、白人がたくさんいるのだと思っていました。しかし、カナダへ行くと、その考えは覆されました。私がお世話になった家族の住むリッチモンド市には多くの東洋人が住んでおり、その中でも中国人の多さに驚きました。市内をドライブしていると、英語で書かれた看板と同じくらい中国語で書かれている看板がありました。とても国際的な国だという印象を持ちました。

私はこの旅でウチナンチュネットワークの広さを知ることができました。様々な理由で様々な国に移住し、活躍している皆さんは凄いです。

そしてこの旅を通してウチナンチュの温かさを再発見しました。皆、忙しいにも関わらず送迎してくれたり、色々な場所に連れて行ってってくれたりしてとても良い思い出を作ってくれました。

また、普通のホームステイでは知ることのできない、県人会のホームステイならではの知らないことのできない移民の話や移民してからの生活などについて知ることができて本当によかったです。



カナダ・バンクーバー

寄宮中学校 2年 久高 愛夏

8月12日～23日までのカナダのバンクーバーに行きました。

出発の2日前に部活で足を怪我してしまって動けない状態でいて、病院の先生に

「明後日カナダに行くんですけどこの足でいけますか？」と聞いたら、

「は!?カナダ?じゃ、ギブスしておこうね」と言われてしまって、絶対やりたくないギブスと松

葉杖になってしまいました。でも、絶対に松葉杖を持ってカナダには行きたくなかったので、コーチの知り合いの整体屋さんに行ってテーピングでがっちり固定されて、松葉杖なしでいけました。みんなに迷惑かけないか少し心配だったけど、特に理恵さんには色んな意味で迷惑をかけてしまったと思います。

出発の日にはわくわくしていて、飛行機に乗る時も楽しみだったけど乗っていると疲れてしまってこれからカナダの飛行機に乗ると思ったらよけいに疲れた感じがしました。空港でご飯を食べて、カナダ行きの飛行機に乗ったときに一つ一つの座席にテレビがついていて、とってもびっくりしました。ハリウッド映画などやっていて特にハンナモンタナを何回も見せてしまいました。飛行機の中では、あまり眠れなくてカナダについてお家に行ったらすぐに寝てしまいました。

空港に着いたときにホストファミリーの方に空港内のすし屋に連れて行ってもらい、カナダまで来てすしを食べれるなんて思いませんでした。すし屋なのにラーメンがあったり、コップのでかさだったり、初日からびっくりな事がたくさんでした。その日はどこにも行かずに家に戻りました。

次の日からは、みんなと行動しました。二日目は、スタンレーパークに行ったり、レストランに行ったりしました。ショッピングしている時ケーキがとてもおいしかったです。3日目は、各ホストファミリーとフリータイムで私たちは

リッチモンドとメロタウンに行きました。最初はリッチモンドのショッピングセンターに行きました。リッチモンドのショッピングセンターも大きかったけど、メロタウンのショッピングセンターはもっともっと大きくて 1 日で回れませんでした。次の日はみんなでメロタウンに行って買い物しました。

ガスタウンは、時計の上からけむりが出ていてびっくりしました。次の日はピクニックでみんなでバレーをしたりゲームをしたりしました。事前に用意してきたエイサーと個人個人で考えてきた沖縄についての発表を英語で話しました。とても緊張したけど、初めて最初から最後まで英語で通せて、少し達成感がありました。

日本語学校やオリンピック会場や国境やつり橋などにも行きました。プレイランドでは、沖縄には遊園地がないので、ジェットコースターなど色んな乗り物がとても楽しかったです。

お別れ会のときに、Patterson さんが空港まで連れてきてくれて空港に向かう車の中でとてもさびしくなりました。本当にあの時は帰りたくない为本気で思いました。みんなと別れるときに泣かないと思っていたけれど泣いてしまいました。でもこの 1 回だけでなく、また行ってあいたいなと思います。



カナダ・ホームステイ

大浜中学校 2 年 張本 美嶺

エアカナダ 4 便にて、8 時間 45 分後、カナダ・バンクーバーへ到着しました。空港には県人会の方々笑顔で迎えてください、なれない土地での生活への不安や疲れも、楽しみへと変わっていきました。

初日から 3 日間は、県人会会長の神里ヒューさん・みゆきさん宅で、ルームメイトの里和子と 4 人での生活です。夜景ドライブや神里さんの友人宅へお邪魔して、カナダ生活の話をしたり、とても充実していました。また、早朝にジョギングをしていると、隣人とのあいさつも交わす事ができました。屋根に居たりスを見たり、朝の新鮮な空気を独り占めでした。朝食や夕食に出た、本場のサーモンはとても美味しかったです。

4 日目からは、花城家での生活です。宮古島出身の正美さん、イギリス人のリチャードさん、同じ歳のジギーと 1 つ下のアヤとの 6 人での生活です。日常会話は英語の為、初めのうちは会話もままならなかったのですが、毎晩、英語の辞書を引き、積極的に会話するように心がけました。聞き取って返事を返せたときはとても嬉しかったです。

5 日目は、県人会ピクニックでした。緑に囲まれた公園を広々と使い、約 100 人ほどの県人会の方々でにぎわいました。景品付きのゲームやバレーボール大会、沖縄についての発表やエイサー、三線の演奏など、多くの方々とのコミュニケーションをとることのできた、貴重な 1 日でした。

8 日目の遊園地は、沖縄にはないスリルを満喫しようと、胸を躍らせていました。初めてのゴーストハウスで腰を抜かしたり、販売機に 300 円盗られたり、ジェットコースターで悲鳴を上げたりと、本当に楽しかったです。

11 日目の帰国の日、県人会の方々抱き合い、みんな涙を流しながら別れを惜しみました。でも、またいつか合えらと思うと、笑顔でさよならできました。

日本とカナダでは極端に気温の差がありましたが、誰一人体調を崩すことなく、カナダホームステイを楽しむことができました。また、県人会の方とは、メールのやり取りをしており、少しずつ英語力が上達しています。

今回お世話になった宮城さん、さつきさん、県会のみなさん、家族や友人、一緒に行った仲間達に心から感謝します。



カナダに行って

東風平中学校2年 花城 里和子

8月12日、私はカナダのバンクーバーにホームステイに行きました。

最初にたてた目標は、向こうの人と交流を深めコミュニケーションをすること。

正直、面接のときは、全然英語もできないし、大丈夫かなと心配でした。そんな中、学校に文書が届いたということで、先生に呼ばれました。私はそのとき、「面接のとき全然英語できなかったし、だめなんだろうな…」とっていました。恐る恐る封筒を開けてみると、「みだしのことについて、選考の結果、貴方をカナダ・バンクーバーに派遣する事に内定いたしました。」と書かれていました。とっても嬉しくて、涙が出ました。友達に結果を報告するとみんなが「頑張ってるね。」と言ってくれました。

それから、オリエンテーションが2回あって、みんなとも少しずつ仲良くなることができました。

そして出発の日、「今から行くんだ。」という気持ちと、「言葉の壁を乗り越えることができるだろうか。」「飛行機は墜落しないだろうか。」など普通なら考えもしないことを考えてしまい、とてつもなく不安になりました。

カナダに着くと、最初に『税関』という、最大の難関がやってきました。予想を遥かに上回る怖さでした。簡単な英会話も怖さで全然理解できなくて、ひとりで大変していました。税関の向こう側で、他の仲間が心配そうにみていました。

なんとか税関もクリアし、ロビーにつくと、県人会の方々が暖かく迎えてくれました。

その後は、神里さんの家に行って、荷物を置いた後、奥さんのみゆきさんと、近くのスーパーに行きました。スーパーも大きかったし、一つひとつの商品がとても大きく、美嶺と二人でびっくりしました。日本とは違うなと思いました。

2日目からはみんなで県人会の方達に連れられて色々なところを回り、文化の違いをたくさん見つけました。ショッピングが主で、バスや電車で移動しました。沖縄より電車もバスも大きかったし、それにともない、利用者もたくさんいました。シーバスにものりました。以外にも早かったのでびっくりしました。4日目には、花城家に移りました。花城家までは、神里さんが送ってくれました。花城家に着くと、AyaとMasamiさんが迎えてくれました。RichardとZiggyもいました。

その後、MasamiさんとRichardとGROUSE MOUNTAINに連れて行ってもらいました。大きなゴンドラに乗ったり、きこりのショーや馬のショーを見たりしました。山の上は、とても寒かったです。そのときRichardは半そでだったのでびっくりしました。

5日目、ピクニックに行きました。県人会の方達がみんな集まって綱引きをしたり、バレーボールをしたりしました。それから、カナダ組のみんなとエイサーを踊ったりしました。6日目、Japanese Hallに行きました。子どもたちはとても可愛かったです。その後は、奥間さんの会社に行きました。歯の模型がたくさんありました。

7日目、スピードスケートの会場と、国境と宮城ファームに行きました。会場はとても大きくてびっくりしました。記念に手形を残しました。国境はすごくきれいで、みんなでアメリカとカナダを行ったり来たりしました。宮城ファームはとても広かったです。宮城さんは顔が赤くて、サンタさんみたいでした。

8日目、つり橋を渡りました。高かったけど、目が悪くてあまり下が見えなかったので少し残念でした。その後は送別会でした。すごく寂しい気持ちになりました。でも、みんなノリノリだったし、歌ったりしていたので楽しかったです。

9日目、博物館に行きました。大ガラスがたくさんいてびっくりしました。その後はみんなでプレイランドに行くと、たくさん遊びました。ジェットコースターは落ちそうで、あいかと一緒に叫んでいました。そして、Ayaと一緒に

50mぐらいの高さからバンジーブランコのようなものに乗りました。本当に怖くて、日本語で叫んでいました。その後、日季さんと入ったお化け屋敷はほとんど目をつぶっていました。

10日目はフリータイムだったのですが、ホストファミリーが仕事だったので、新井さんの家族にお世話になりました。11時くらいに行くと竹田さんが、寝癖ではやととゲームをしていたので、それを見て美嶺と一緒に爆笑していました。

メロタウンに行って、神里さん達も一緒にお昼を食べました。その後は、ショッピングを楽しみました。

晩御飯は、Aya と Masami さんと Richard と美嶺と一緒に近くのお店で最後の晩餐でした。すごくおいしかったです。最終日とは思えませんでした。

そして11日目。いよいよ沖縄に帰る日です。朝は Masami さんが職場を見せてくれました。それから空港へ。Aya と何回もハグをしました。いよいよお別れするとき、普段はいつも笑っている県人会の方達がみんな泣いていました。お別れだから絶対泣かないと決めていたのに、いつの間にかもらい泣きしていました。そのとき、「もうお別れなんだな」と思いました。最後、県人会の方達が「また、おいで」と泣き笑いながら言ってくれました。

目標であった、「交流を深め、コミュニケーション」をすることができました。でも、もっと英語を勉強しておけばよかったという後悔が残りました。次行くときは、もっとたくさんの人と仲良くなって、もっとたくさんの人とおしゃべりしたいです。そのためにはもっともっと英語を勉強します。頑張ります。

私がカナダに行っただけの一番の思い出は、もう一つの家族ができたことです。

アンケート

ホームステイ参加学生・生徒へのアンケート(派遣前)

アンケート数:18 (中学生 5 名、高校生 11 名、短大生 1 名、専門学校生 1 名)

Q1. このホームステイプログラムであなたが最も期待していることはなんですか？
(期待するものから()に1～7の優先順位を書いてください)

海外でのホームステイ	海外県人会との交流	語学力の向上	海外経験	将来の就職につながるきっかけ	外国の文化・歴史
1 位	4 位	2 位	3 位	6 位	5 位

その他

- ・ アルバカーキのどこに行けるのか
- ・ 食べ物
- ・ たくさん友達をつくる
- ・ 日本と違う環境
- ・ 色々な価値観を学ぶ
- ・ 現地の人の生活習慣にふれる

Q2. 海外県人会の家庭でのホームステイということで安心感や、良いイメージなど、思い描くことがあれば書いてください。

- ・ 英語も日本語も喋れそうで、沖縄の人たちだから沖縄の色々な話もできるし、外国の文化や習慣も学べられそう。
- ・ 沖縄からの移民ということもあり、少し親近感がある。あと、ホームステイ先のホストの方々は先輩の方が多いので、優しいだろうなというイメージを持っている。
- ・ 自分的には凄く楽しみでわくわくしています!!子どもが好きなので、外国の子と触れ合うのも楽しみです!!けど、アメリカと日本の文化の違いで、相手に失礼な事をしてしまわないかはとても不安です。家族と仲良くなって、お互いいい出会いになりたい。
- ・ 外見は日本人でも中身が外人で普段とは違う環境の中でどこか共通点(日本人の)があるのかなと思います。
- ・ 日本語が通じる人もいると思うので、いざとなったときに安心できると思う。
- ・ どんな人たちがいるのか、家庭は楽しそう。
- ・ たくさん会話ができること、アメリカに知り合いの人ができること、夕食の時間が楽しそう。
- ・ 良いイメージは朝ごはん。洋食で良さそう。話では皆さん良い人みたいで、コメントをしてくださっていた。優しい方々と聞いた。
- ・ カナダの人はフレンドリー。どうしても言葉が通じなかったら日本語も少し通じる。なんか身近にかんじる(少し沖縄人だから)
- ・ 日系と聞いたので、少しは日本人と似ているのかなーと思うと少し安心します。英語を話すから、なんかフレンドリーなイメージがあります。
- ・ ホストファミリーが夫婦だけの家族という事もあって、優しくな穏やかなイメージがあります。OG の話も聞けてイメージが湧き安心しました。
- ・ 少しでもいいから、日本語が喋れるというので安心していきます。しかし、できるだけ英語を使ってコミュニケ

ーションをとっていきたいです。

- ・初めての海外でのホームステイなので、県人会の家庭でのホームステイということもあり、少し安心している。語学の問題など不安だったが、ホストファミリーの一員ということで積極的にいけたらと思う。
- ・優しい(フレンドリー)、家族同様に接して欲しい。
- ・自分も家族の一員になって楽しく何もかもやっている。
- ・まず、県人会の方々は何回もホームステイの子たちをホームステイさせた経験があると思うので、色々と安心します。あと、外国では靴をはいて家の中に入るの、そういったところも楽しみです。ホームステイ先の子達とも仲良くなれたらと思うので、とても楽しみです。
- ・うちなーんちゅだから少し日本語だったら理解してもらえそう。フレンドリーなイメージ

Q3. 今感じている不安なことを素直に書いてください。

- ・ 事件・事故がないか。持ち物の紛失がないか
- ・ 自分の英語力で現地の方々とどこまでコミュニケーションが取れるかということが不安でもあるし、期待でもある。もちろん、今までずっと沖縄に住んでいた沖縄っ子?!なので、多少のカルチャーショックはあると思うけど、2週間という短い期間なので楽しんでいけたらいいと思う!!
- ・ ほとんどないです。けど、お金とか盗まれたら泣きそうなので、気をつける。英語の面では不安を乗り越えているのでジェスチャーで頑張る!
- ・ 自分が思っているような家庭ではなく、ホストファミリーの方々にも悪い影響を与えてしまわないか心配です。そして慣れない所で盗難等の被害にあわないか不安。
- ・ 言葉が通じるかどうか不安。ホームステイ先でちゃんと自分のことができるか不安。
- ・ 楽しく家族の一員になれるか、語学力はうまく使えるか。
- ・ 無事にアメリカに着いて入国できるか、お金がとられないか、時差ぼけがきつそう。
- ・ 言葉があまり通じないこと、入国検査
- ・ 英語が話せない。お腹痛くなったら困る。
- ・ 国や言葉が違うし、環境も違うのでなじめるかとても不安です。病気にならないか心配。(特に新型インフルエンザ)
- ・ 一緒に行く皆とうまく盛り上げてやっていけるのかという不安が少しだけありますが…特にないので大丈夫です。
- ・ すりなど、泥棒にあわないかどうか。
- ・ 沖縄についての発表がちゃんとできるか
- ・ スリにあわないか。
- ・ 言葉がきちんと伝わるか不安だけど、ジェスチャーとか自分で出来る限り頑張って伝えたいとおもいます。
- ・ 「仲良くなりたい」という気持ちはあるのですが、本当に仲良くなれるかが心配です。言葉もうまく伝わるか心配です。あと、スリが多いそうなので、その辺も心配です。
- ・ お金が足りるかどうか。ホストファミリーと仲良くなれるかどうか。

ホームステイ参加学生・生徒へのアンケート(派遣後)

アンケート数:16 (中学生5名、高校生9名、短大生1名、専門学校生1名)、未回収2名

Q1. 滞在中、海外のウチナンチュの歴史や生活、ウチナーネットワークを学ぶことができましたか？

(施設見学を通して・ホームステイを通して・県人会との交流を通して・他)

- ・ カナダに住んでいても、沖縄の事をたくさん知っていて、凄いと思った。また、生活もほとんど変わらなくて驚いた。
- ・ 県人会の人とたくさんお喋りしたり、色んなところで一緒に過ごしたり、生活をする事で日本とは少し違った食事やマナーなど生活習慣を学ぶ事ができた。
- ・ 苦勞していることも良いところも分かった。
- ・ 現地での生活を体験し、沖縄の文化を伝えながら現地の文化を味わうことができた。
- ・ 様々な施設を訪れ、カナダという国、県人会の人の暮らしを知ることができた。ピクニック等、誰でも楽しめるので Good!
- ・ ホームステイ先の家が以外にも日本が大好きで毎日和食で美味しかった。お父さんはカナディアンなのに、相撲とか納豆とかも好きでびっくりした。
- ・ 施設見学などで、ウチナンチュの人がカナダでどのような職に就いているのか、沖縄との違いは何かなど学んだ。ホームステイ先では、ウチナーの生活は変わりなかった。
- ・ 海外で暮らす日系人の生活が肌で感じられた。
- ・ 市長さんの所に訪問して、アルバカーキの状況やこれからの改善に向けての計画や、県人会の人達との交流で沖縄の知らなかった文化を見つけられた。
- ・ 沖縄を愛する人として、皆さん結束力がすごいと思った。本当に温かい方達ばかりで、一人一人の人生経験を教えていただいた。
- ・ ウチナンチュの歴史やネットワークを学べた。
- ・ 英語だけではなく、ウチナーグチも教えてもらった。県人会の方々から、沖縄の昔話などを聞かせてもらった。
- ・ ホームステイを通して、日本以外の歴史、文化を見学することができた。日本の文化に触れることが出来た。

Q2. 派遣先の地域の方々との交流はできたか？

どのくらい: いっぱい、言葉にできないくらいたくさんできたという回答多数。

どんな形で: パーティや食後、ピクニックなど

印象に残っている交流について

・ 県人会ピクニック、毎日の送迎、送別会、パーティ、食事、遊園地、沖縄について発表しているとき、ホームステイ先の友達とサッカーをした時、山登り、別れのとき

Q3. あなたが期待したことはこのホームステイツアーでどのくらい達成されましたか？

交流や異文化体験に関しては達成感を感じている参加者が多かったが、語学力の向上を期待していた参加者

も多く、語学力に関しては期待していたほどではなかったとの回答があった。

Q4. 出発前に不安に思っていたこと、行ってみても不安が大きくなったり、問題につながったりしましたか？

ほとんどの参加者が「いいえ」と回答していたが、語学面で不安に思っていたが、現地で交流を図る際、思うように話せなかったことから、語学面をあげた回答があった。

Q5. 事前オリエンテーションは役に立ちましたか？(複数回答可)

語学研修	保護者説明会	沖縄を伝える学習	沖縄移民の歴史	参加者同士のコミュニケーション	派遣地からの情報(留学生)
6	4	10	6	15	8

その他:飛行機での過ごし方、派遣地の気候

Q6. その他に事前に学んでいたほうがよかったと思うことはありますか

- ・ 英語というよりは、もっと県人会のことを学習した方がいい
- ・ もっと日常会話の語学訓練をしておけばよかった
- ・ 三味線とかもっと沖縄を伝えられるものをたくさんできた方がいい
- ・ 英語力をもっとアップしておけば、もっとたくさんホストファミリーと交流できた
- ・ ホームステイ先の家族のこととか、好きなものなどを知っておきたかった
- ・ 派遣地の気候、バンクーバーの観光地などもっと事前に調べておいて知っていたら、もっと深く学習できたと思う
- ・ 語学をもっと勉強して、英語能力をもっと高められていたらなと思った(同様の意見多数)
- ・ ホームステイ先の方と事前に連絡をとっておけば、お土産を決めたりしやすいと思った
- ・ 英語は絶対!!あとは、文化や習慣、フォーク・ナイフ・スプーンの使い方など
- ・ コミュニケーションの仕方

Q7. その他感想、要望・意見などありましたら、書いて下さい。

- ・ 今回のホームステイで異国で生活しているウチナンチュと触れ合えてとても良かったと思う。カナダに居ても、私より沖縄のことが分かっていたりと本当に凄と思った。県人会の活動を知るといよりは、観光ばかりだったので、勉強とかもあったほうが良いと思う。
- ・ また、みんなで冬に行きたい。
- ・ 沖縄の歴史とかよりは身近な学校のことなどについて発表した方が喜ばれると思う(歴史などはみんな詳しいので)
- ・ カナダ(バンクーバー)は雨が降ったら沖縄の冬なので、厚着を増やした方がいいと思う(バンクーバーは雨が多いので)
- ・ 語学研修は何回か開いて、ノートなどにまとめるといい。自分が必要だと思うことを書き留める。県人会の人たちは英語を使っているのだから私たちにも英語で接して欲しい。交流と共に英語力のアップにつながる。英語に自信を持ち、将来にも関わってくると思う。
- ・ このホームステイに参加できてとても良かったと思う。初めて海外に出て色々な物に触れて体験できたの

が良かったです。不安も少しありながらみんなと協力できてこの10日間を無事過ごせて嬉しいです。このままカナダにいたいです。

- ・ 派遣前にもっと県人会やホームステイ先の情報がもっと詳しく分かっていたら、どのような人たちがいることや生活などが少しは見えてたかもしれない。全く分からない状態だったので、おみやげや日本語・英語がどれだけ喋れるのだろうかと不安だったので。
- ・ 今回、この派遣に参加して本当に良かった。色々な面で充実したホームステイ生活を送ることができた。
- ・ 県人会の人たちを通して、ホームステイを体験しながらいろんな人たちと出会い、たくさんコミュニケーションをとったり文化を学んだり、観光したりと人生ではなかなか味わえないことを出来てとても良かった。そしてこのホームステイでアメリカでのホストファミリーとの絆が深まり、第二の家族という感じでとても温かかった。ホームステイを通して進路も自分の人生も大きく変わったと思う。また機会があればアルバカーキに滞在したい。
- ・ アメリカを存分に味わえた。すごくハードではあったけど、その分最高の思い出を作る事ができた。
- ・ 素晴らしい10日間になったと思う。英語を話す機会が少なかったのが少し残念。もっとホストファミリーと過ごす時間が欲しかった。
- ・ ホームステイに参加できてよかった。とてもいい思い出ができた。ホームステイの期間がもっと長かったらいい。
- ・ 10日間は少し短い気はしたけど、ホストの方々にとっても私たちにとってもちょうど良かったと思う。
- ・ とても楽しかった！でも、現地で2日間病気にかかって楽しい時間を少しムダにしたから、行く前に健康診断を受けたほうがいい。予防もしっかりした方がいい。
- ・ またアルバカーキに佑佳さんと行く。そして英語を学びたい。

ホストファミリー・アンケート結果

回収数

1. Please write your impression of this year's homestay program (good points, points needing improvement, requests for youth-participants, other thoughts).

今回のこの事業に対する感想を記述してください(良かった点、改善すべき点、派遣生徒に対して要望したいこと、その他)

- ・ 生徒たちがその土地の文化・歴史を学び、将来の経験が生かされるなら、とても良い事業だと思う。
- ・ ホストファミリーとだけ過ごす時間を1日ぐらい設ける。
- ・ 来る前の健康診断、健康管理の心配
- ・ とても素直な生徒たちで私自身楽しむことができた。孫が2人増えた気持ちでよかった。
- ・ Good
- ・ 若い世代の人たちに海外で生活する県人の暮らしぶりを垣間見る経験を与える事ができるのは大変素晴らしいことだと思う。また、我々にとっても若い沖縄の人たちの考え方、生活態度などを勉強できる良い機会となった。
- ・ 引率者が若くて女性であった事は我々に非常に気楽で良かったと思う。
- ・ 沖縄から移住して30年経っていたので、沖縄の若者たちと交流できて楽しかった。
- ・ 子供たちが居る事によって家が明るくなった

- ・ 時間的にゆっくり話し合うことができなかった
- ・ 子供たちの家族のインフォメーションが欲しかった
- ・ 沖縄の子供たちが県人会のホストファミリーと生活し、異文化に触れ、はつらつと楽しんでいる姿は微笑ましく、一緒に来た仲間同士との結束も深まり、良い経験になったと思う。
- ・ 参加者に女性が多かったので、若くてしっかりした女性の引率者はとても適任でよかったと思う。
- ・ 各自の意見、感想を飾り気なく率直に表現する事は良かったと思う。しかし、お互いのおしゃべりが多く、案内の方々の説明をなさっている間にもうるさいときなどもあり、それはとても残念なことだと思う。それに、皆さん歩くのがゆっくりなので、移動するのに無駄な時間がかかってしまった。もう少し行動を活発にして欲しい。
- ・ 沖縄の若い子供たちと接する事ができてよかったと思う。派遣生徒に対しては、男の子が 2,3 名多い方が良いと思う。
- ・ 次回は、毎日のアクティビティを少なくし、ホストファミリーと過ごす時間をもっと増やした方が良いだろう。
- ・ Very good. For our part, I think next time we will reduce the length of daily planned activities, so the host families will have more time to interact and speak English with the students.

→とてもよかった。一方で、次回から毎日のアクティビティの時間を短くすれば、ホストファミリーが生徒達と過ごして英語を話す時間をもっと持てるだろう。

- ・ Group size was about right!

→人数はよいぐらいです。

- ・ I thought it was very good program, good kids and it was a lot of fun. The only thing I would like to know is the money issue. For example, if we were to go out for dinner do we ask them to pay or is it up to the host family?

→とてもよい事業だと思いました。よい生徒ばかりでとても楽しかった。ただ知りたかったのは、お金の問題です。例えば、外で食事をするとき、我々は彼らに支払いを求めるべきなのかそれともホストファミリー次第なのか。

- ・ The children are very open to the American culture. I would like some time with host family alone to do something without group.

子供達はアメリカの文化にとってもオープンに接していました。グループとの行動とは別に、生徒とホストファミリーだけでもっと時間があればいいと思います。

2. Was the time period for this year's homestay program suitable?

今回のホームステイの実施時期については、適当でしたか？

- ・ 期間、時期については適当(他、多数意見あり)
- ・ ニューメキシコ州では暑い時期になっているが、沖縄の皆様の夏休みを利用しての時期で良いと思う。
- ・ 夏休みの期間中(7~8月)だったのでよかった。(バンクーバーでは)8月の第1週に日系のお祭りがある)
- ・ 少し大変だった。7・8月は児童、学生は夏休みでサマーキャンププログラムを取ったり、家族での休暇などの時期なので、スケジュール組むのが難しい。それに地元の学校体験とかは夏休みで無理なので残念。日本での春休み頃はどうか？

- Yes, 10 days is about right.

→はい。10日間はちょうどよいと思う。

- Time range was very good.

→時間の長さはちょうどよいぐらいです。

- 10 days is about right could extend to 14 days.

→10日間でいいぐらいだと思うが、2週間ぐらいに延長してもよいかもしれない。

3. Do you have any thoughts or requests regarding the timing of arrangements between Okinawa Prefecture and kenjinkais for this year's homestay? (E.g. In order to find local host families, by when do kenjinkais need to receive information such as the implementation date or the number of youth-participants?)

今回のホームステイ派遣事業についての県と海外県人会との調整時期について、意見・要望はありますか？（現地でのホストファミリーを確保するため、いつごろまでに実施日、派遣人数などを海外県人会へ知らせる必要があるか など）

- 2ヶ月以上前には人数等、生徒の情報を送ってほしい。
- ホストファミリーを決めるのに、3～6ヶ月ほど時間が欲しい。
- 県と県人会との連絡がどのように行われたか詳しくは知らないが、出来るだけ連絡及び決定が大切だと思う。
- できれば3ヶ月前くらい
- 派遣人数は早い時期に知らせてほしい。県人会の世代構成により13～22歳の子どもの数が少ない場合もあるので考慮して欲しい。
- 6ヶ月程前には、はっきりとしていた方がいい。派遣人数、10名は少し多すぎると思う。案内するのに、車の手配をしたり、交通手段が大変。6名程度がいいと思う。
- 派遣日数、日時はできるだけ早い方がいい。派遣人数は県人会との調整で決めること。
- Everything was OK, there were some last-minute changes (3 students added) but we were able to accommodate with no problems.

→すべて良かったです。生徒が3人増えるなどの急な変更があったが、問題なくステイさせることができた。

- Three to 6 months should give enough time to arrange Homestay host families.

→3ヶ月から6ヶ月ほどの受け入れホストファミリーを取り決める十分な時間を与えるべき。

- These events need to be planned at least a year ahead of arrival.

→日程は、実施時期の少なくとも1年前から計画される必要がある。

- I would have it a week or two earlier depends on when school starts for American children.

→アメリカの子供たちの学校が始めるときに合わせて1週間か2週間ほど早めに実施すべきと思う。

4. What are the most important characteristics for youth-participants to have? Please number in order of importance from 1 to 7.

ホームステイ参加者の資質で大切な事は何ですか？以下の()に1～7までの優先順位を書いてください。

Language ability	Desire to interact with kenjinkai members	Interest in international exchange/foreign countries	Ability to teach people about Okinawa	Active enthusiastic attitude	Interest in doing a homestay
6	4	3	5	1	2

Other (Please specify)

- Heart of service

→心遣い

- 正しい日本語が使えること
- 公共でのマナーを身につけておくこと(歩道で広がって歩かないとか、列には順番よく並ぶとか、“Excuse me” “Please” “Thank you”をきちんと言えることなど)
- 健康な生徒
- 基本的な生活態度

5. How was the attitude of your host student toward the daily living and learning aspects of the homestay?

今回受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか？(感想を述べてください)

- 積極的な学習態度であった。
- 私たちが作成したスケジュールちゃんと素直に活動することが出来た。団体にもすごく協力する事ができた。
- とても良かった。
- 意思表示がはっきりしていて大変良いと思う。滞在 3 日あたりからお互いに少し慣れたように思うが、我が家での滞在期間が 5 日間だったので、お互いを知り合うには十分な時間がないように思えたが、ずいぶん親しくなれたと思う。
- 参加者の生活態度は非常に良く、又くたくなくはつらつとして日本の将来も明るいなと思った。又、積極的にカナダを知ろうとするのが嬉しかった。
- すごく積極的にカナダについて勉強したり、体験したりするので、良かったとおもう。
- 生徒たちは皆明るく元気いっぱい、カナダの肌寒い気候に体調も崩さず良く頑張ったと思う。ピクニックで、「沖縄の紹介」をしたのは、それぞれの個性も出て、私たちの知らない情報もあり興味深くとても良かった。
- 積極性があり、礼儀正しくとても良い子供たちだった。英語の辞書も良く活用して会話しようと頑張っていた。すぐにうちの家庭になじんでくれたので、とても良かった。
- まじめで素直ないい子だった。男の子 1 名なので、少しかわいそうな気もした。
- Very pleasant and willing for all activities.

→すべての活動にとっても楽しんでおり、積極的であった。

- The fit right into the daily routine. He was cheerful and pleasant. A pleasure to have in our home.

→毎日を順調に過ごしていました。彼は、明るく、愛想のいい子であった。我が家に来てくれてよかった。

- They were good – mannerism is different. Being teenagers there are challenges but having teenage children myself made it easier.

→みんなよい子だった。ただし変わっていた。ティーンエイジャーにはいろいろな悩みがあると思うが、私自身十代の子供がいるので、彼らと接するのもそれほど大変ではなかった。

- The child we had was outstanding. to learn American culture. I would have like more time to be with her. She tried new foods and did not complain.

→我が家にステイした生徒はすばらしかったです。もっと彼女と過ごしたいと思いました。慣れない食べ物をだしても、文句も言わずに食べました。

6. May we enter your family in the Host Family Data Bank as family that is able to host homestays next year and in future years?

次回以降についても、ホームステイ受け入れが可能なホストファミリーとして、ホストファミリーバンクに登録しても良いですか？

- 今回はものすごく楽しく過ごすことができた事に感謝している。しかし、私の年齢上、バンク登録には遠慮させてもらいたいと思う。
- 郷里沖縄の為になることはできるだけ協力したいと思うが、家族構成や状況などつねに変化するので、ホストファミリーバンクへの登録は差し控えさせていただきたい。
- ホストファミリーバンクなるものがどう使われるのか分からない。次回以降も県人会がその時の事情を一番理解しているので、要請すれば良いと思う。
- ホストファミリーはできるだけ同世代の子どものいる家庭の方が子供同士の交流もでき意義があると思う。
- 「はい」、「大丈夫」、「良い」という回答有り
- We wouldn't mind short term such as the one we had but promises can't be made as circumstances might change.

→今回のように短期間のステイであれば構いませんが、状況が変わるかもしれないので、お約束はできません。

7. Please write any other comments or requests you may have for Okinawa Prefectural Government/

その他、県に対する要望等があれば、書いてください。

- とても良いプログラムなので、これからも続けて欲しい。
- 宮城さん、今回はご苦労さまでした。お疲れ様です。
- スムーズな段取りをお願いしたい。
- このプログラムを長く価値のあるものにするには、多くの人の協力が必要だと思う。特に生徒を受け入れる家庭での中心である主婦の協力は不可欠だと思う。
- 参加者とホストファミリーの共用できるものを築っていく事も大切だと思う。例えば音楽、スポーツ等
- 参加前に生徒とホストファミリーがEメール等を使って交信できるのではないだろうか。
- 語学力も大切だが、内容が伴わなければいけないと思う。
- 正しい英語を学習する事も大切だが、正しい日本語を使う事も大切だと思う。
- 県側に御理解頂きたいこと: 友愛会の世帯数が少ない上、アクティブに活動できるのは25世帯くらい。世帯

数が少ないので、今回参加者の人数が限界だろう。登録している県人会世帯数、約 70 世帯、内年齢等を考慮すれば、受入可能世帯は 15 世帯がせいぜいだろう。又、母県に対する気持ちの温度差が会員の中にいろいろである。当地では夏休みに家族で旅行する事が多い。

- ・ 今回高校や中学生たちが来てくれて、一緒に過ごして交流して本当に良かったと思うが、できれば北米の沖縄移住者や移民の社会など勉強(研究)している学生たちが来てくれると、もっとこちらからいろいろ教えることもできるし、そちらにも勉強になると思う。または、英語力を磨くチャンスと思っている子が多いが、バンクーバーの県人会はどちらかというと日本語が主な言語になっているので、学生たちが来る前に少しこう紹介をしてくれると助かる。
- ・ 海外で親戚や知人も少ない環境の中、自分たちの生活で精一杯の家庭に、県人会が主体でホームステイ先、案内、運転手等を手配し、10 日間の日程を遂行する事は沖縄で同じことをする以上に負担が大きいと思う。県人会の人数は限られており、全てボランティアで、仕事を休んだり、家族が全面的に協力しなければならぬ場合もあり、今後もう少し負担を軽減する方法を考慮してほしい。
- ・ これからは、ホームステイ体験者が沖縄でホストファミリーになるよう(バンクーバーで新井ファミリーがしたように)相互で協力する事が望ましい。海外からの子弟を受け入れるのも、立派な国際交流で英会話の上達にもつながると思う。沖縄側でももう少し現地(沖縄)でのホストファミリー登録に力を入れてほしい。
- ・ 沖縄に関する書籍(特に琉球史とか、沖縄の方言)、DVD などの販売をお願いしたい。カタログとか海外からでも買える購入先など。バンクーバー県人会には琉球太鼓クラブも定着しているが、エイサーの衣装とか現在手作りの多い状態。そういう物の仕入れ先などもアドバイスいただけないだろうか。
- ・ 各県人会の世代、または国際結婚が多いか少ないかによって、その国の言葉を少しでも知っていればいいと思う。カナダのバンクーバーでは、現在 1 世の方々元気なので、必ずしも英語が話せる人を送る必要はない。どちらにしても短期間なので、工夫しながらコミュニケーションとれると思う。

・ Great program! Keep it up!

→すばらしい事業です。継続してください。

- ・ We are encouraged by this good relationship between Canada and Okinawa Japan. We will continue to remember the people of Okinawa in our prayers.

→カナダと沖縄でこのようにとても良い関係が築かれていることに励まされました。これまでに引き続き、沖縄の人々のことを祈りの中でおぼえます。

- ・ It might be good for letters to host family lot 2 months out. To start a dialogue between host family and host student.

→2 ヶ月程前に生徒がホストファミリーに手紙を出すようにして、生徒とホストファミリーのやりとりが始められれば良いと思う。

【アルバカーキ】

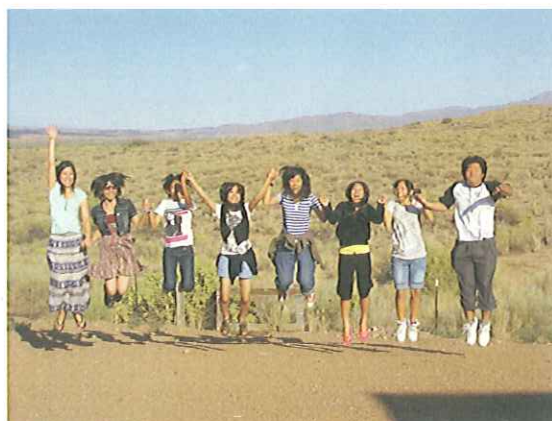


ニューメキシコアルバカーキに到着。県人会の方々の温かいお迎えありがとうございます。



海拔 3000 メートル以上のサンディアマウンテンをハイキング。

ワイトサンドへ行く途中、大自然をバックに皆でジャンプ！アメリカにいることを皆で感じた瞬間でした。



県人会の方々の前での沖縄紹介は、やや緊張気味・・・。
聞く側の県人会の方々がよくわかっていた！？





アメリカで習った琉球舞踊を現地の大学で発表！
衣装も立派でしょ！

同世代との交流は、楽しかったー！



多くの県人会のお宅で食事をいただきながら交流しました。



サヨナラは来るもの。皆で感謝の気持ちを伝え、また会えることを誓い合い、最後の夜を共に過ごしました。



【バンクーバー】



県人会の方々が、旗を振り、笑顔で出迎えてくれたので不安も疲れも吹っ飛びました！



Stanley Park
ネイティブインディアンの
作る、Totem Pole の前で
Totem Pole になりきって！



Gastownバンクーバーで最も古い町。
蒸気時計の前で。



ホストファミリーの仲泊さんの息子・ケン兄とその友達たち
とサッカー交流をした参加者もいました。



県人会ピクニック！バーベキュー、パレーボールやゲームなどを通してたくさんの県人会の方々と交流
をしました。用意していた沖縄についても発表し、またエイサーも一緒に踊ることができました！！



沖縄県系人・職場見学！
 歯科技工士・奥間さん（写真上）
 鉄工所・棚原さん（写真左）
 農業・宮城さん（写真右）



送別会にて。
 参加者のはるか、まなほ、
 りかと県人会のケン兄、カ
 ヤ姉とサンシンの共演。
 県人会の方々もサンシン
 に合わせて歌っていました♪



人類博物館にあるトーテムポールの前で。

バンクーバー空港にて。
 ホストファミリーのみなさんが
 家族のように接してくれたおかげで
 たくさんの思い出ができました。
 最後は涙を流す者も…また会おう！
 という約束をしてお別れとなりました。

ホストファミリーバンク登録県人会

	地域	国	登録県人会名	登録世帯 (2009年度状況)	受入年度 (期間)	受入人数
1	北米	米国	ハワイ沖縄連合会	6	2007 (7/30~8/7)	8
					2008 (7/24~8/3)	7
北米沖縄県人会			5	2008 (7/23~8/2)	6	
ニューメキシコ沖縄県人会			7	2009 (8/12~8/22)	8	
アトランタ沖縄県人会			5	2007 (7/25~8/2)	3	
ベンサコーラ沖縄県人会		2				
6		カナダ	バンクーバー沖縄県友愛会	8	2009 (8/12~8/22)	10
	レスブリッジ沖縄県人会		8	2008 (7/23~8/1)	5	
8	中南米	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	7		
9		キューバ	キューバ沖縄友好協会	13		
10		ブラジル	ブラジル沖縄人会	4		
			カンボグランデ沖縄県人会	15		
11						
12	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	1			

今年は、事業の受入事業と派遣事業が、両方実施された2年目の年となりました。ホームステイを通して若い世代が沖縄や海外県人会と関わるこの交流事業が、今後も継続発展的な事業となるように関係者のご理解とご協力を引き続きいただきたいと思っております。

さて、担当者として事業を通して感じたことですが、まず、受入事業については、海外に住む10代の県系人にどういった形で「沖縄」を伝えたらよいか正直模索しながらでありました。しかし、少数受入の事業であったため、臨機応変に対応できたことから、参加者のニーズにきめ細かく対応しながら実施できたと思います。

また彼らが滞在中の10日間、沖縄をどのように感じているのだろうかと思っていましたが、エイサーの太鼓を聞き体験し、沖縄そばを作り食べ、平和記念資料館を見学などしながら多くの沖縄の文化、歴史を自然と学んだと思います。

いつかまた、今回、触れた沖縄について、深めていきたいと思う心境になってくれれば、幸いです。

そして、彼らを10日間、家族のように受け入れ、そして接していただきました県内ホストファミリーの方々及びご協力いただきました団体へ誠に感謝しております。

さて、もう一方の派遣事業の方ですが、参加者募集の時期に海外における新型インフルエンザ流行時期とが重なり、学校関係者や保護者からの問い合わせが相次いだことから始まりました。

しかし、こうして、派遣された参加者や引率者に大きな病気や怪我をする者もなく、報告書をまとめる時期を迎えられたことに担当者として安堵しています。

私が引率した受入県人会のひとつであったニューメキシコ沖縄県人会は、規模こそ小さいものの、県人同士がしっかりと繋がっていると感じさせる県会でありました。また「ふるさとの島の子供たちへすばらしい体験をしてもらいたい」という気持ちが彼らの計画したひとつひとつから伝わり、これも国を超えた次世代への継承のひとつなのだろうと感じました。

その参加した生徒学生たちと言うと、ホストファミリーやその他の県人会の方々で過ごす中で海外県人社会を十分に感じてくれたと思います。彼らにとって多感なこの時期に海外で滞在できたことは、今後の人生に少なくはない影響を与えるだろうし、また今回が、海外と関わるほんの始まりに過ぎない生徒学生もいるのでしょう。

受入及び派遣事業に参加した者が、それぞれの地で築いた関係の意味をお互いが認識し、今後も継続した関係であることを強く願っております。(沖縄県観光商工部 交流推進課 宮城康一郎)

今年で2回目となる受入事業ではアメリカ、カナダから3名の県系人子弟が参加しホストファミリーや訪問先の企業や団体との交流を通して沖縄を知り・学び・体感するプログラムを実施することができました。参加者全員が以前に沖縄や本州での滞在経験があるということでしたので、今回の受入プログラムでは通常の観光を目的とした旅行や滞在では経験することができない交流体験型の内容を可能な限り設定しました。中でも沖縄国際大学エイサーサークル琉球風車さんとの交流プログラムではワークやエイサー体験を通し沖縄歴史・文化を学ぶことができました。参加者により良く理解してもらうために英語でワークを行ったり、終了式では参加者と共にエイサー演舞を披露して下さったりと、団員の皆さまが一丸となって全面協力していただきました。おかげ様で想像以上に素晴らしいプログラム内容を実施することができ参加者も大変満足している様子でした。

やはりその土地のことを本当に理解するためには、その土地に住む人々との出会いや交流を通し自らが体験してはじめて実感し、身になるものだと思ふため実感しております。このプログラムでの出会いや経験が参加者の沖縄に対する想いや考えを深めるきっかけとなり、これからのウチナンチュネットワークを担う存在と

なってくれることを心から期待しております。

最後になりましたが、参加者を快く受け入れてくださったホストファミリーの皆さま、プログラム実施にあたり協力していただきました企業や団体、学校関係者の皆さまにこの場をお借りし改めて御礼申し上げます。有難うございました。
(沖縄NGOセンター 知花美奈)

カナダ沖縄県友愛会、ニューメキシコ沖縄県人会の皆さま、そして沖縄の子どもたちを家族の一員のように受け入れてくださったホストファミリーの皆さまのご協力により、本プログラムに参加した18名がとても充実した10日間を過ごすことができ、無事修了することができました。18人の参加者が10日間という短期間ではありましたが、県人会のみなさんとの交流の中で、多くのことを吸収し、海外を視野に入れた将来のビジョン設定、沖縄について学ぶ意欲、外国語学習や異文化理解への態度の変化などが見られました。海外と沖縄とのつながりが子ども達にどれだけ豊かな学びを与えることができるのか、本報告書を通してお伝えすることができれば幸いです。

今回、私はカナダ派遣の10名の引率として同行いたしました。カナダ沖縄県友愛会はカナダにある4つの県人会のうち、会員数の最も多い県人会です。年に2回(新年会とピクニック)集い、つながりを深めており、大家族のような印象を受けました。10日間のプログラム、また県人会、ホストファミリーのみなさんの参加者へ接する様子から、参加者へ思い出に残る良い経験をしてもらいたい、またカナダ移民の歴史や海外に住む県系人の様子を知ってほしいという想いが伝わってきました。その想いは、参加者一人一人が強く感じ、多くのことを吸収したことでしょう。

私も参加者同様、ホームステイさせていただき、ホストファミリーの辻本夫妻や会長の神里夫妻と毎日夜遅くまでこれからのつながりについてなど語りあうことができました。また、ホームステイピクニックでは戦前移民の知花さんにも会うことができ、知花さんの話から、知花さんの歴史だけでなく沖縄の歴史を知ることができ、また生活の場所を変えることの意味など考えさせられることが多々あり、とても貴重な出会いとなりました。

県人会やホストファミリーからは、今後もつながりを持ち、互いの交流を続けていって欲しいとの要望もありました。そのためには、本プログラムを含め、何を目的に「つながる」のか互いに目的を共有していくことが大切だというご指摘も頂きました。本プログラムを運営させていただく上で私自身強く感じたことであり、また当然のことではありますが、一人では答えなど出せないことだということも痛感しました。だからこそ、本プログラムの参加者や出会った海外に住む県人会のみなさま、沖縄と海外とのつながりに関心のある方々と共に考えていきたいと思います。

本事業も3年目を終え、OB・OGもオリエンテーションや報告会で協力する体制ができてきました。本事業を通して、沖縄と海外とのつながりの大切さを実感した参加者が続く沖縄の子ども達をサポートし、海外県人会、また同世代の県系人とのつながりを考えていく場を形成できればと思います。沖縄NGOセンターは、今後参加者がこの経験、出会いをどのように活かしていくのか、長いスパンで見守り、応援し、また海外に住むウチナーンチュとのネットワークを広げ深める活動に関わっていきたい所存です。(沖縄NGOセンター 金城さつき)

平成21（2009）年度沖縄県ホストファミリーバンク推進事業報告書

発行者 沖縄県観光商工部交流推進課

住 所 〒900-8570 那覇市泉崎1丁目2番2号

電 話 098（866）2479

FAX 098（866）2765

Email アドレス aa050400@pref.okinawa.jp

<http://www.pref.okinawa.jp/index.html>

制 作 特定非営利活動法人 沖縄NGOセンター

住 所 〒901-2211 宜野湾市宜野湾3-23-52 1F

電 話 098（892）4758

FAX 098（892）9908

Email アドレス ocn@oki-ngo.or.tv

<http://www.oki-ngo.or.tv>